千種台地区住宅整備事業に係る環境影響評価

事後調査結果中間報告書＜工事中＞

（住宅団地の建設、開発行為に係る事業）

平成 25 年 9 月

名古屋市

本報告書は、平成 3 年 7 月に届出した千種台地区住宅整備事業に係る環境影響評価事後調査計画書（工事中）に基づき行った事後調査について、平成 25 年 3 月末までの調査結果を取りまとめたものである。

目　　次

第１章　事業者の名称及び所在地---------- 1

第２章　対象事業の名称及び種類---------- 1

第３章　対象事業の概要---------- 2
１．対象事業の区域---------- 2
２．対象事業の概要---------- 3
３．事業の実施状況---------- 4

第４章　環境影響評価手続きの経緯---------- 5

第５章　工事中における環境影響評価の概要---------- 6
１．大気汚染---------- 6
２．水質汚濁---------- 7
３．騒音---------- 8
４．振動---------- 11
５．地盤---------- 14
６．廃棄物---------- 15
７．安全性---------- 16

第６章　対象事後調査（工事中）の項目と手法---------- 17

第７章　事後調査（工事中）調査結果---------- 18
１．水質---------- 18
２．騒音---------- 44
３．振動---------- 104
４．その他---------- 164

第１章　事業者の名称及び所在地

事業者名　名古屋市
代表者　名古屋市長　河村　たかし
住所　名古屋市中区三の丸三丁目１番１号

第２章　対象事業の名称及び種類

名称　千種台地区住宅整備事業
種類　住宅団地の建設、開発行為に係る事業

第３章　対象事業の概要

１．対象事業の区域

名古屋市千種区自由ヶ丘ほか

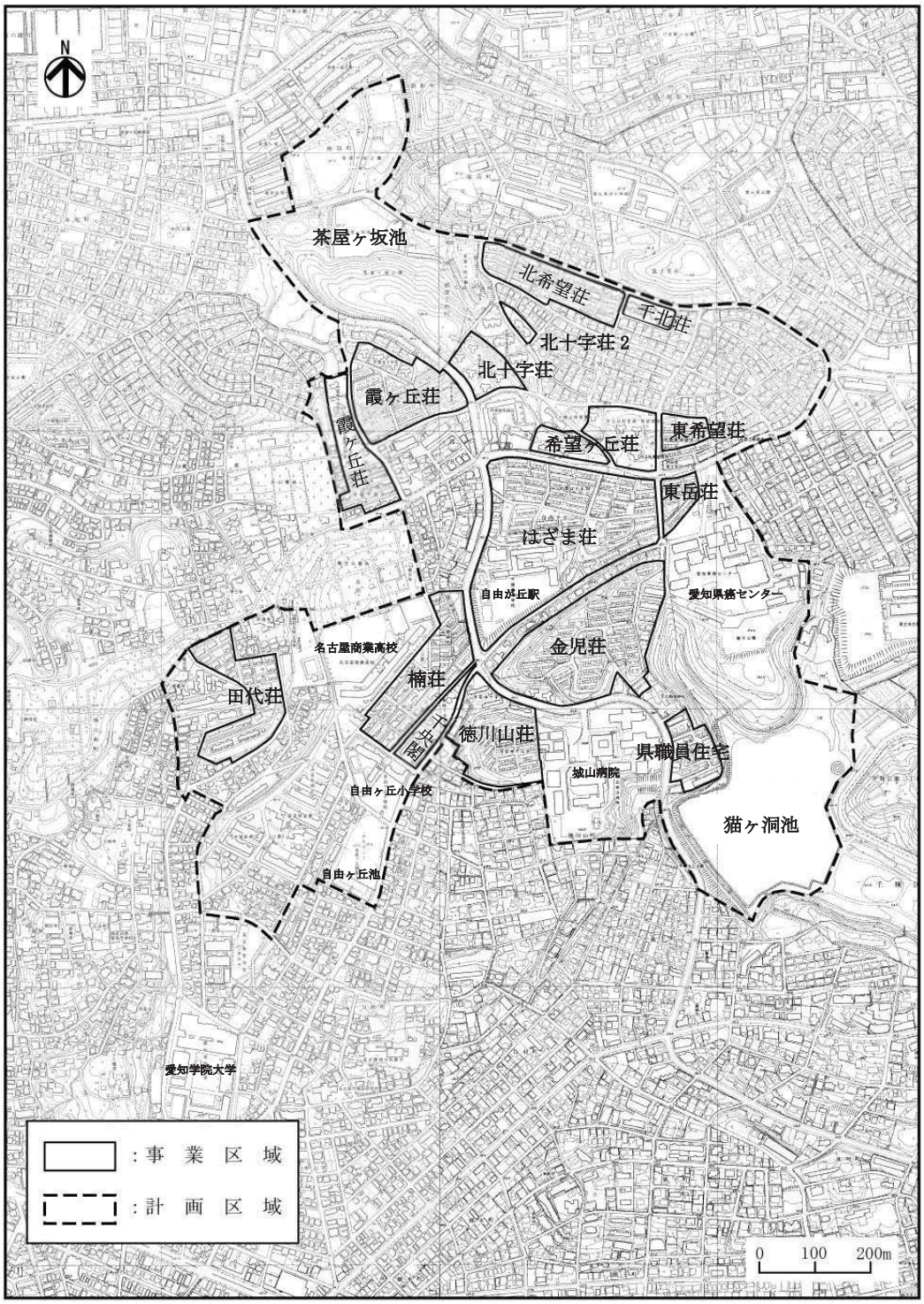


図 3-1　対象事業区域

２．対象事業の概要

事業区域面積　36.44ha（計画区域面積　約 109ha）

表 3-1　土地利用計画

用　　途	面積（ha）	構成比（%）
住　宅　用　地	4.78	13.1
駐　車　場　用　地	3.10	8.5
道　路	8.85	24.3
宅　内　通　路	1.71	4.7
住　宅　施　設　用　地	1.77	4.9
プ　レ　イ　ロ　ッ　ト	1.43	3.9
施　設　用　地	4.85	13.3
緑　地	9.95	27.3
そ　の　他	0.00	0.0
合　計	36.44	100.0

注）１．計画の緑地は、上記用途以外で植栽可能な土地面積として算出。

２．現況のその他は、建物の前後の敷地で個人が駐車場、自転車置場、庭等に浸かっている敷地。

３．各用語の定義は次のとおり。

住　宅　用　地：住宅建設用地

宅　内　通　路：団地内の歩行者用通路、駐車場までの接続道路、住宅施設までの連絡通路等

住宅施設用地：入居者用生活関連施設用地（ポンプ室、集会所、自転車置場等）

プレイロット：児童遊園

施　設　用　地：高齢者福祉施設、センター施設、交通広場、文化教育施設の用地

４．施設用地については、関連して必要となる周辺の用地（接続道路、歩行者道路、緩衝帯等）を含む。

５．駐車場用地については、駐車及び出し入れに必要な用地を含む。

表 3-2　住宅供給計画

住宅区分	建設戸数
一般市営住宅	１，６５５
定住促進住宅	３２
シルバー住宅	６７
公営住宅計	１，７５４
公社住宅	２４２
県職員住宅	建替中止（62 戸）
合計	１，９９６

３．事業の実施状況

表 3-3　事業の実施状況

年　　度	概　　要
平成 3 年度	第１期建替事業（北希望荘）
平成 5 年度	第２期建替事業（楠荘１次）
平成 7 年度	第 3 期建替事業（霞ヶ丘荘１次） 高齢者福祉施設併存高齢者専用住宅建設
平成 9 年度	第 3 期建替事業（霞ヶ丘荘２次） 第 4 期建替事業（はざま荘１次）
平成 13 年度	第 5 期建替事業（金児荘１次） 第 6 期建替事業（北十字荘） 第 7 期建替事業（田代荘１次）
平成 14 年度	第 4 期建替事業（はざま荘２次） センター地区公社定借分譲・商業施設建設 楠公社特優賃建設
平成 15 年度	第 8 期建替事業（徳川山荘） 第 9 期建替事業（東希望荘）
平成 16 年度	第 10 期建替事業（希望ヶ丘荘） 第 7 期建替事業（田代荘２次）
平成 17 年度	第 9 期建替事業（東希望荘２次）
平成 18 年度	第 5 期建替事業（金児荘２次）
平成 20 年度	自由ヶ丘２丁目　公社定借分譲住宅

第 4 章　環境影響評価手続きの経緯

環境影響評価書の作成等の経緯は表 4-1 のとおりである。

表 4-1　環境影響評価手続きの経緯

事　　項			内　　容
現況調査計画書	届出日		平成元年 10 月 12 日
	縦 覧	期 間	平成元年 10 月 20 日～11 月 4 日
		場 所	名古屋市公害対策局環境影響評価室
環境影響評価準備書	届出日		平成 2 年 9 月 7 日
	縦 覧	期 間	平成 2 年 9 月 12 日～10 月 12 日
		場 所	名古屋市公害対策局環境影響評価室
	説明会	期 間	平成 2 年 9 月 22 日
		場 所	千種区千種台中学校体育館
意見書	提出期間		平成 2 年 9 月 12 日～10 月 27 日
	提出件数		289 件
見解書	届出日		平成 2 年 12 月 10 日
	縦 覧	期 間	平成 2 年 12 月 15 日～平成 3 年 1 月 5 日
		場 所	名古屋市公害対策局環境影響評価室
公聴会	申請件数		86 件
	開催日		平成 3 年 4 月 20 日
	開催場所		千種区千種台中学校体育館
	陳述人		10 名
環境影響評価審査書	受理日		平成 3 年 6 月 3 日
	縦 覧	期 間	平成 3 年 6 月 3 日～6 月 18 日
		場 所	名古屋市公害対策局環境影響評価室
環境影響評価書	届出日		平成 3 年 7 月 10 日
	縦 覧	期 間	平成 3 年 7 月 16 日～7 月 23 日
		場 所	名古屋市公害対策局環境影響評価室
工事着手届出書 事後調査計画書（工事中）	届出日		平成 3 年 7 月 23 日
再手続等免除申請	申請日		平成 10 年 3 月 20 日
	承認日		平成 10 年 3 月 30 日
事業内容変更の届出	届出日		平成 13 年 8 月 24 日
事後調査計画書（供用開始後）	提出日		平成 25 年 5 月 29 日
	縦　覧	期 間	平成 25 年 6 月 7 日～6 月 21 日
		場 所	名古屋市環境局地域環境対策課、千種区役所、環境学習センター

第５章　工事中における環境影響評価の概要

平成３年７月に作成した環境影響評価書において実施した、工事中における環境影響評価の概要を示す。なお、騒音、振動、廃棄物、安全性については、平成13年８月の事業内容変更の届出時の内容を示す。

１．大気汚染

《現況》

事業予定区域の降下ばいじん量は、市内全域より少ない状況にあり、土質については砂礫分の多い粒度組成となっている。

《環境保全目標》

「周辺住民の日常生活に著しい影響を及ぼさないこと」とする。

《予測》

事業予定区域の土質は砂礫分が多く、飛散しやすいシルト、粘土等の細粒成分は少ないことから、著しい粉じんの発生する可能性は小さいと考えられるが、強風時や乾燥時といった悪条件が重なる場合には、粉じんによる影響も考えられる。

一方、除却工事については、除却建屋の材質や解体方法によって粉じんの発生状況が異なるため一概には言えないが、一般的にやはり強風時や乾燥時には粉じんの発生する可能性が考えられる。

《評価及び環境保全対策》

造成工事及び除却工事の際、気象状況など悪条件が重なった場合には粉じんの発生する可能性があるが、次に示す環境保全対策を行い、影響の軽減に努めることから、粉じんが周辺住民の日常生活に著しい影響を及ぼすことはないものと考えられる。

(1)　掘削・削岩時に発生する粉じんに対しては、工事区域に仮囲いを行い、乾燥時には適宜散水を行う。

(2)　土砂の運搬によって発生する粉じんに対しては、道路の汚染を防ぐためタイヤの洗浄、シート覆い等の指導を徹底させ、さらに定期的に運搬ルート上の道路清掃・散水を行う。

(3)　盛土・切土の露出した表土からの飛散に対しては、十分な転圧等を行う。

(4)　除却工事時に発生する粉じんに対しては、工事区域に仮囲いを行い、解体時には建物に充分な散水を行う。また、住宅が隣接する場所では必要に応じて粉じん防止シート等を設置する。

２．水質汚濁

《現況》

関係地域及びその周辺には千種台川、山崎川、楠元排水路の３つの河川があり、また治水機能を持つ猫ケ洞池、茶屋ケ坂池、自由ヶ丘池の３つのため池がある。

これらため池の降雨時の水質は、pH が 7.0～7.1、SS が 16～30mg/L の範囲にあった。

《環境保全目標》

「ため池の水質に著しい影響を及ぼさないこと」とする。

《予測》

関係地域及びその周辺の地質は砂礫を主体とする洪積層より成り、シルト・粘土分が比較的少ないため、沈砂池による自然沈降で相当程度の効果を上げることができるものと考えられ、著しい濁水がため池に流入する可能性は小さいと考えられる。

また、コンクリート打設に伴うアルカリ排水や掘削による泥土は、廃棄物と同じ扱いで運搬処分し、コンクリートミキサー車の洗浄水も運搬処分するよう指導することから、アルカリ排水については影響はないものと考えられる。

《評価及び環境保全対策》

工事に際しては、宅地造成等規制法に基づく沈砂池等を設置することにより、環境保全目標は達成できるものと考えられる。

さらに、次に示すような環境保全対策を行うことにより、濁水の発生防止に努める。

(1)　切土、盛土によって新たにできた法面は適当な材料（ブロック、緑化等）により被覆する。

(2)　沈砂池は位置、容量、形状に留意して計画し、設置後は堆積した土砂を適宜除去する等の維持管理を適切に行う。

(3)　多量の土砂運搬を必要とする工事は長雨時、台風時を回避すべく施工時期、順序について十分な配慮をする。

(4)　杭打時の泥土、コンクリートミキサー車のミキサー及びシュート部分の洗浄水については運搬処分を行う。

３．騒音

《現況》

道路に面さない一般地域における環境基準の適合率は、名古屋市全体が 83～85％であるのに対し、千種区では 100％適合している。

また、事業予定区域周辺における環境騒音レベルは昼間が平均 42dB(A)、夕が平均 41dB(A)で、測定 8 地点中 1 地点を除き環境基準に適合している。

《環境保全目標》

「周辺住民の日常生活に著しい支障を及ぼさないこと」とした。なお、特定建設作業については、騒音規制法及び愛知県公害防止条例に基づく特定建設作業の規制基準を遵守する。また、それ以外の建設作業についても特定建設作業の規制基準を一応の目途とする。

《予測》

建設機械の稼働による事業予定区域周辺の工事騒音レベルは、敷地境界付近での最大値においても規制基準の 85dB(A)を下回っている。

工事騒音レベルの最大値（平成 3 年　評価書届出時）

（単位：dB(A)）

予　測 ケース	区 分	最大値	予測対象団地（工種）
1	前 半	75	北希望荘（躯体）
2		78	はざま荘（除却・造成）
3		75	楠荘（除却）
4	後 半	81	千北荘（躯体）、北十字荘（造成）、 千有荘（除却・造成）、西十字荘（躯体）
5		77	松景閣（造成）、展望閣（造成）、 東希望荘（躯体）、東岳荘（除却）
6		77	新十字荘（造成）、金児荘（除却・造成）、 中十字荘（造成）、徳川山荘（造成）、 千央閣（造成）、県職員住宅（除却）
7		75	田代荘（除却）

工事騒音レベルの最大値（平成 10 年　再手続等免除申請時）

（単位：dB(A)）

予測ケース	最大値	予測対象団地（工種）
1	－	北希望荘（躯体）
2	－	楠荘（南）（除却）
3	－	霞ヶ丘荘（造成）
4	77	西十字荘（造成）
5	75	金児荘（除却）
6	72	東岳荘（除却）
7	73	徳川山荘（造成）
8	75	田代荘（除却）
9	76	千央閣（造成）
10	72	はざま荘（外構）、楠荘（北）（躯体）
11	77	東希望荘（造成）、展望閣（造成）、 松景閣（造成）、千北荘（除却）、 北十字荘（北・中）（除却）

注）予測ケース1,2,3の工種は実施済み

工事騒音レベルの最大値（平成 13 年　事業内容変更届出時）

（単位：dB(A)）

予測ケース	最大値	予測対象団地（工種）
1	－	北希望荘（躯体）
2	－	楠荘Ⅰ（除却）
3	－	霞ヶ丘荘（造成）
4	－	西十字荘（造成）
5	－	はざま荘Ⅰ・新十字荘（外構）
6	－	金児荘Ⅰ（除却）
7	72	東岳荘（除却）
8	75	金児荘Ⅱ（除却）
9	72	北十字荘Ⅰ（躯体）、東・北田代荘（躯体）、 センター地区（躯体）、はざま荘Ⅱ（躯体）、 楠荘Ⅱ（基礎）
10	77	南・中田代荘（躯体）、 徳川山荘・中十字荘（躯体）、 東希望荘Ⅰ（躯体）、千北荘（躯体）、 北十字荘Ⅱ（躯体）、楠荘Ⅲ（躯体）、 東希望荘Ⅱ（造成）、展望閣Ⅱ（造成）、 松景閣（造成）、千央閣（除却）

注）予測ケース1～6の工種は実施済み

《評価及び環境保全対策》

建設機械の工事騒音レベルは、敷地境界付近で規制基準を下回っており、環境保全目標は達成できると考えられる。

なお、周辺は閑静な住宅地であるとともに、静穏を要する学校や病院が隣接していることから、工事騒音に関しては特段の配慮が必要と思われる。そこで、工事に際しては、作業時間、作業区域、使用機器の配置等を十分に考慮した作業工程の作成、技術進歩に伴う低騒音工法、低騒音機械の積極的導入、工事構内における工事車両の低速運転・急発進禁止等の措置を取るとともに必要に応じて仮囲いの高さを高くする等の環境保全対策を図り、周辺への影響を極力小さくするよう努める。

また、各事業予定区域の工事実施時期には工事に関する説明等を実施し、周知に努める。

４．振動

《現況》

事業予定区域周辺の環境振動レベルは、昼間、夜間とも 30dB 未満であった。

《環境保全目標》

「周辺住民の日常生活に著しい支障を及ぼさないこと」とした。

なお、特定建設作業については、振動規制法及び愛知県公害防止条例に基づく特定建設作業の規制基準を遵守する。また、それ以外の建設作業についても特定建設作業の規制基準を一応の目途とする。

《予測》

建設機械の稼働による事業予定区域周辺の工事振動レベルは、敷地境界上の最大値においても規制基準の 75dB を下回っている。

工事振動レベルの最大値（平成３年　評価書届出時）

（単位：dB）

予　測 ケース	区 分	最大値	予測対象団地（工種）
1	前 半	58	北希望荘（除却）
2		60	はざま荘（除却）
3		65	楠荘（外構）
4	後 半	65	千北荘（外構）、北十字荘（除却・外構）、 千有荘（除却）、西十字荘（外構）
5		66	松景閣（外構）、展望閣（除却）、 東希望荘（外構）、東岳荘（除却）
6		62	新十字荘（外構）、金児荘（除却）、 中十字荘（除却）、徳川山荘（除却）、 千央閣（外構）、県職員住宅（除却）
7		61	田代荘（除却）

工事振動レベルの最大値（平成 10 年　再手続等免除申請時）

（単位：dB）

予測ケース	最大値	予測対象団地（工種）
1	－	北希望荘（除却）
2	－	楠荘（南）（外構）
3	－	霞ヶ丘荘（造成）
4	59	西十字荘（造成）
5	60	金児荘（除却）
6	57	東岳荘（除却）
7	62	徳川山荘（除却）
8	61	田代荘（除却）
9	61	千央閣（外構）
10	60	はざま荘（外構）、楠荘（北）（躯体）
11	64	東希望荘（造成）、展望閣（造成）、 松景閣（造成）、千北荘（除却）、 北十字荘（北・中）（除却）

注）予測ケース1,2,3の工種は実施済み

工事振動レベルの最大値（平成 13 年　事業内容変更届出時）

（単位：dB）

予測ケース	最大値	予測対象団地（工種）
1	－	北希望荘（躯体）
2	－	楠荘Ⅰ（外構）
3	－	霞ヶ丘荘（造成）
4	－	西十字荘（造成）
5	－	はざま荘Ⅰ・新十字荘（外構）
6	－	金児荘Ⅰ（除却）
7	57	東岳荘（除却）
8	59	金児荘Ⅱ（除却）
9	58	北十字荘Ⅰ（躯体）、東・北田代荘（外構）、 センター地区（躯体）、はざま荘Ⅱ（外構）、 楠荘Ⅱ（基礎）
10	63	南・中田代荘（外構）、 徳川山荘・中十字荘（躯体）、 東希望荘Ⅰ（外構）、千北荘（外構）、 北十字荘Ⅱ（外構）、楠荘Ⅲ（躯体）、 東希望荘Ⅱ（基礎）、展望閣Ⅱ（造成）、 松景閣（造成）、千央閣（造成）

注）予測ケース1～6の工種は実施済み

《評価及び環境保全対策》

建設機械の工事振動レベルは、敷地境界上で規制基準を下回っており、環境保全目標は達成できると考えられる。

なお、周辺は閑静な住宅地であるとともに、静穏を要する学校や病院が隣接していることから、工事振動に関しては特段の配慮が必要と思われる。そこで、工事に際しては、作業時間、作業区域、使用機器の配置等を十分に考慮した作業工程の作成、技術進歩に伴う低振動工法、低振動機械の積極的導入等の環境保全対策を図り、周辺への影響を極力小さくするよう努める。

５．地盤（斜面安定性）

《現況》

関係地域及びその周辺は、名古屋市千種区から名東区にかけて広がる標高 60～80m 程度の丘陵の西縁にあたり、地形は西方に向かって緩く傾斜している。千種台団地の建設が始まった昭和 20 年代後半頃より、大規模な宅地開発が相次ぎ、かつての丘陵部は階段状に平坦化され、本来の丘陵地形は一部で名残を留めている程度である。

地質は、半固結堆積物で礫質土を主とする八事層（礫径 5cm 前後のチャート礫を主体とし、礫層の基質は花崗質砂からなる）及び唐山層（礫径 40cm 以下の石英斑岩礫を主体とし、チャート礫以外は著しい風化を受けており、一般に「くさり礫」と呼ばれている）より構成されている。なお、関係地域においては、斜面の崩壊や地すべりの形跡は認められていない。

《環境保全目標》

「工事の実施により斜面を崩壊させないこと」とする。

《予測》

本事業は、既存住宅団地の再開発であることから、大規模な地形改変は行わないこと及び現在ある斜面は一帯が樹林に被われており、過去に斜面の崩壊や地すべりの事例もないことから、工事中に斜面が崩壊する可能性は極めて少ないものと予測される。

《評価》

本事業は既存住宅団地の再造成であり、大規模な斜面の形成はないこと及び軟弱な地盤や崩落の恐れのある箇所はないことから、工事中に斜面が崩壊する可能性は極めて少ないものと予測される。

また、造成により新たに形成された斜面については、関係法令等を遵守して適切な防災対策を施すことから、環境保全目標は達成できるものと考えられる。

６．廃棄物

《環境保全目標》

「周辺住民の日常生活に著しい影響を及ぼさないこと」とした。

《予測》

工事中に発生が推定される廃棄物の種類、発生量及びその処理処分方法は以下のとおりである。

廃棄物の種類、発生量及びその処理処分方法

廃棄物名	内　容　物	発生量（㎥）	処理処分方法
除却廃材	コンクリート等廃材 木くず 各種解体混合物	50,300	運搬処分
造成残土	掘削土	227,000	〃
杭打時の泥土	泥土注)	23,800	〃
建設残材	コンクリートガラ 各種混合物	800 8,100	〃

注）泥土にはコンクリート打設に伴うアルカリ排水を含む。

廃棄物の発生量は、平成 13 年 8 月の事業内容変更の届出時の内容を示す

《評価及び環境保全対策》

工事に伴って予測結果に示したような廃棄物が発生するが、関係法令等を遵守して廃棄物が周辺に飛散することのないように適正な運搬・処分を行うことから環境保全目標は達成できるものと考えられる。

なお、工事の実施にあたっては、次の事項に配慮し、出来る限り生活環境に影響を及ぼさないよう努める。

(1)　廃棄物の場内での一時保管については、極力滞留することのないようにし、飛散しやすい廃棄物にはシートを掛ける等の措置をする。

(2)　廃棄物の搬出時には、運搬車両へのシート被覆及びタイヤを洗う等の留意をして、運搬途上の荷こぼれ、飛散及び道路の汚染を防止する。

７．安全性

《現況》

関係地域は、歩道等の安全施設が良く整備されており、交通事故件数も関連学区でここ数年減少傾向にある。

主要道路の自動車交通量は、東西、南北方向とも約 10,000 台前後（12 時間）で朝夕に交通量が多くなっている。

また、自由ヶ丘小学校前では朝夕の登下校時に歩行者のピークが見られる。

《環境保全目標》

「通学路等における交通安全を確保すること」とする。

なお、周辺幹線道路において交通処理機能を著しく損なわないことも考慮する。

《予測》

工事中における交通量増加率は最大 2.4%と予想された。

また、主要交差点について交通処理機能を検討した結果、現況ですでに交差点の交通容量を超過している交差点が 3 箇所みられたが、工事中に新たに交通容量を超える交差点はないと予測された。

《評価及び環境保全対策》

関係地域は安全施設が比較的良く整備されており、歩車道分離もおおむね良好なことから、環境保全目標は達成できるものと考えられる。

また、工事関係車両の発生に伴う増加交通量についても、周辺道路での増加率は運行台数が最も多くなる時で最大 2.4%と予測され、交通処理機能を著しく損なうことはないと考えられる。

なお、以下に示す保全対策を実施することにより、通学路等の交通安全に及ぼす影響のより一層の軽減に努める。

(1)　工事関係車両の運転手には、徐行や一旦停止などの交通法規を厳守させて安全運転を徹底させるとともに、工事現場出入口付近には誘導員を配置することなどにより、事故防止に努める。

(2)　配車計画の策定にあたっては、短時間に工事車両が集中することのないようにするとともに、通学路等に配慮し、周辺の交通状況に合わせて適宜運行ルートの調整などを行う。

第６章　対象事後調査（工事中）の項目と手法

１．事後調査（工事中）の目的

対象事業に係る工事中において、対象事業の実施により環境要素に及ぼす影響の程度について把握し、調査の結果、環境保全の見地から必要と認めた場合、適切な措置を講ずるため行う。

２．事後調査（工事中）計画

事後調査（工事中）計画は表 6-1 に示すとおりである。

表 6-1　事後調査（工事中）計画

環境に影響を及ぼす行為	造成工事・コンクリート工事	建設機械の稼働	
調査する環境項目	水質汚濁	騒音	振動
調査事項	pH、SS	建設作業騒音	建設作業振動
調査場所	猫ヶ洞池、茶屋ヶ坂池各２箇所	工事区域周辺の地点２箇所	工事区域周辺の地点２箇所
調査時期	年４回	工事中の騒音について予測を行った時期で、前半についてはそれぞれの団地ごとに、後半については周辺への影響が最も大きくなると思われる隣接した各団地を同時施工した場合の工種の施工時	工事中の振動について予測を行った時期で、前半についてはそれぞれの団地ごとに、後半については周辺への影響が最も大きくなると思われる隣接した各団地を同時施工した場合の工種の施工時
調査方法	水質汚濁に係る環境基準について（環境庁告示）に定める方法に準拠	JIS Z 8731 に定められた騒音レベル測定方法	JIS Z 8735 に定められた振動レベル測定方法
その他		建設機械の配置及び稼働状況も合わせて調査する	同左

３．その他

対象事業に係る工事中の苦情についても整理した。

第７章　事後調査（工事中）調査結果

千種台地区住宅整備事業における各年度の工事中の調査結果は次のとおりである。

１．水質

《調査実施年度》

水質の事後調査（工事中）実施年度は、表 7-1 に示すとおりである。

表 7-1　事後調査（工事中）実施年度

年　度	調　査	年　度	調　査	年　度	調　査
平成 3 年度	○	平成 10 年度	○	平成 18 年度	○
平成 4 年度	○	平成 11 年度	○	平成 19 年度	○
平成 5 年度	○	平成 12 年度	○	平成 20 年度	○
平成 6 年度	○	平成 13 年度	○	平成 21 年度	○
平成 7 年度	○	平成 14 年度	○	平成 22 年度	○
平成 8 年度	○	平成 15 年度	○	平成 23 年度	○
平成 9 年度	○	平成 16 年度	○	平成 24 年度	○
平成 9 年度 2 次	－	平成 17 年度	○		

《調査場所》

調査場所は、図 7-1 に示すとおりである。

採水は、猫ケ洞池及び茶屋ケ坂池の中央付近における表層と下層（池底より 0.5～1m程度）及び流入地点で行った。

《調査時期》

降雨時 2 回及び非降雨時 2 回の合計 4 回行った。

《調査方法》

採水は JIS K 0094.4.1 に定める方法で行った。

分析は「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定める方法により行った。

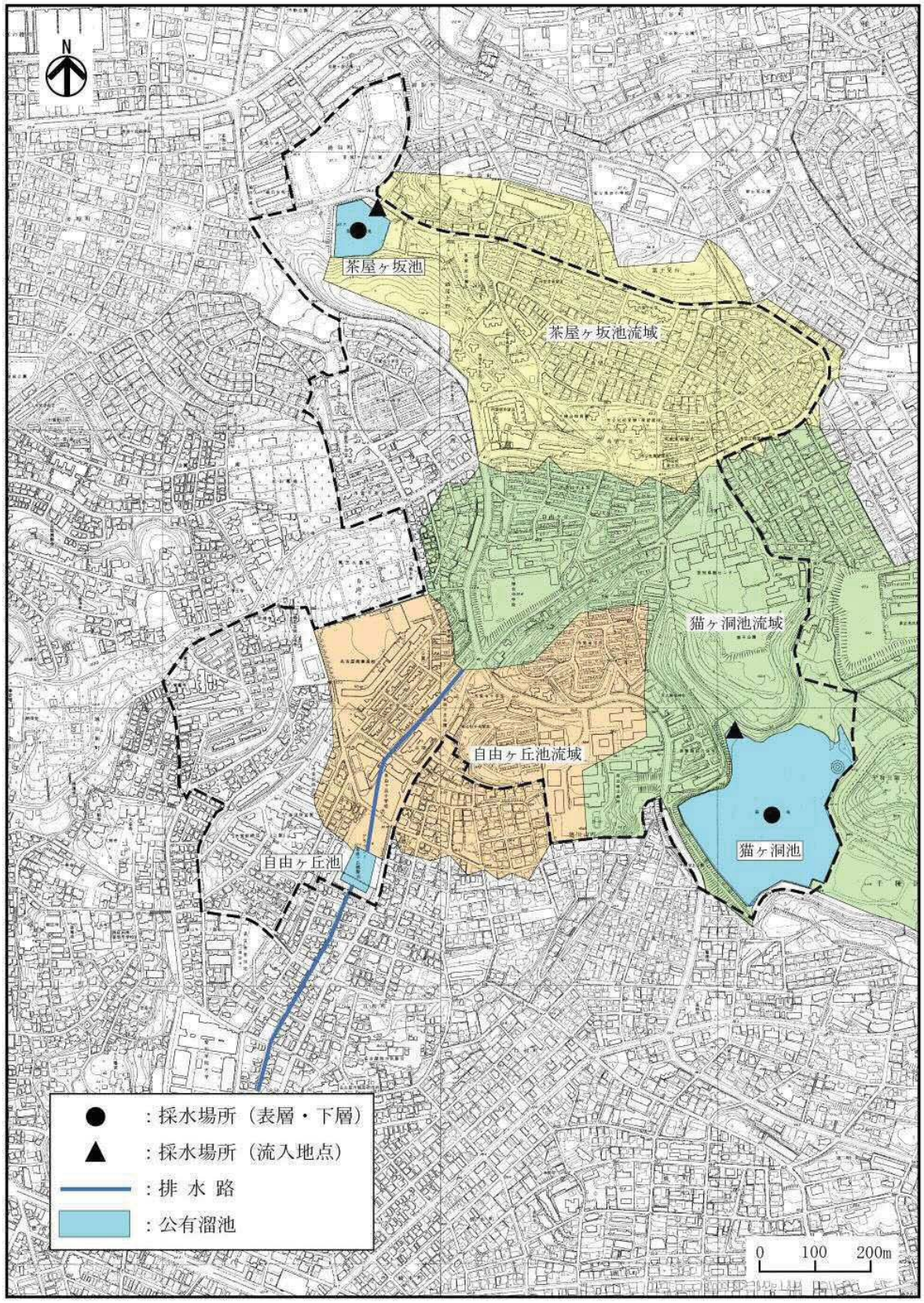

N
茶屋ヶ坂池
茶屋ヶ坂池流域
猫ヶ洞池流域
自由ヶ丘池流域
自由ヶ丘池
猫ヶ洞池
：採水場所（表層・下層）
：採水場所（流入地点）
：排 水 路
：公有溜池
0 100 200m

図 7-1　水質調査場所

《調査結果及び予測結果との比較》

平成3年度から平成24年度事後調査結果は表7-2に示すとおりである。

平成4年9月降雨時調査において茶屋ヶ坂池の流入地点でSSの高い値(104mg/L)が見られた。これは前日の降雨により建設中のポンプ室に流入した濁水を排水したためと思われた。それ以外にもpH、SSに高い値（pH：11、SS：190 mg/L等）も見られたが、本工事の工事区域は猫ヶ洞池及び茶屋ヶ坂池の流域外であったこと、工種からは濁水やアルカリ排水の発生はほとんどないと考えられることなどから、いずれも本事業の工事以外の要因によるものと思われた。

表7-2　事後調査（工事中）結果

区　分	調査場所		pH	SS（mg/L）
降雨時	猫ヶ洞池	表　　層	6.9 ～ 9.0	2 ～ 41
		下　　層	6.7 ～ 7.8	4 ～ 31
		流入地点	6.9 ～ 8.7	3 ～ 46
	茶屋ヶ坂池	表　　層	6.8 ～ 9.2	2 ～ 32
		下　　層	6.8 ～ 8.5	4 ～ 44
		流入地点	6.7 ～11.0	<1 ～190
非降雨時	猫ヶ洞池	表　　層	6.8 ～ 9.1	2 ～ 35
		下　　層	6.8 ～ 9.0	3 ～ 33
		流入地点	6.8 ～ 9.0	2 ～ 91
	茶屋ヶ坂池	表　　層	6.6 ～ 9.8	1 ～ 15
		下　　層	6.7 ～ 8.8	2 ～ 20
		流入地点	6.6 ～ 9.3	<1 ～ 25

《実施した保全対策の内容》

評価書に記述した保全対策を実施した。

(1)　工事に際しては、宅地造成等規制法に基づく沈砂池等を設置し、設置後は堆積した土砂を適宜除去する等の維持管理を適切に行った。

(2)　切土、盛土によって新たにできた法面は適当な材料（ブロック、緑化等）により被覆した。

(3)　多量の土砂運搬を必要とする工事は長雨時、台風時を回避する等施工時期、順序について十分に配慮した。

(4)　杭打時の泥土、コンクリートミキサー車のミキサー及びシュート部分の洗浄水については運搬処分を行った。

《環境保全目標との適合状況》

環境保全目標は、「ため池の水質に著しい影響を及ぼさないこと」である。

平成4年9月において、前日の降雨により建設中のポンプ室に流入した濁水を排水したためSSが高くなった（104mg/L）が、それ以外のpH、SSの高値（pH：11、SS：190 mg/L等）は、いずれも本事業の工事以外の要因によるものと考えられること、また、建設工事における排水対策として河川等に排出されるSSの目安を名古屋市の排水基準200mg/L（水質汚濁関係ハンドブック　名古屋市）と比較しても、104mg/Lはこれを下回っていることから、環境保全目標は概ね達成されたものと考えられる。

なお、各年度における調査結果の詳細は次に示すとおりである。

(1) 平成3年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H 3.10/18	H 4. 3/19	H 3.10/18	H 4. 3/19
	猫ヶ洞池	表層	6.9	7.2	11	19
		下層	6.9	7.0	15	22
		流入地点	7.0	7.1	13	16
	茶屋ヶ坂池	表層	6.8	7.0	16	32
		下層	6.8	6.8	21	39
		流入地点	6.8	7.1	14	15
非降雨時	調査年月日		H 3. 9/ 3	H 4. 1/24	H 3. 9/ 3	H 4. 1/24
	猫ヶ洞池	表層	8.1	6.8	8	14
		下層	7.4	6.8	5	14
		流入地点	7.4	6.8	4	16
	茶屋ヶ坂池	表層	6.8	6.6	10	7
		下層	6.8	6.7	5	11
		流入地点	6.9	6.6	7	5

採水日及び前日の降水量（資料編）

区分	採水日	2日間の降水量（mm）
降雨時	平成3年10月18日	43.5
	平成4年3月19日	36.5

採水日及び前日の降水量（資料編）

区分	採水日	2日間の降水量（mm）
非降雨時	平成3年9月3日	0.0
	平成4年1月24日	0.0

水質汚濁調査結果

参考として、湖沼B類型の環境基準と比較した結果、非降雨時については、両池のうち猫ヶ洞池の流入地点のSS値が若干高い値を示したほかは、湖沼B類型の環境基準を満足するものであった。

千種台地区住宅整備事業3年度環境影響評価事後調査報告書（平成4年3月）より

(2) 平成4年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H 4. 6/24	H 4. 9/26	H 4. 6/24	H 4. 9/26
	猫ヶ洞池	表層	8.2	8.3	13	22
		下層	7.6	7.8	10	21
		流入地点	8.7	7.4	8	24
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.6	9	21
		下層	7.6	7.7	12	21
		流入地点	8.4	6.7	8	104
非降雨時	調査年月日		H 4. 4/15	H 4.11/19	H 4. 4/15	H 4.11/19
	猫ヶ洞池	表層	7.8	7.5	9	15
		下層	7.9	7.1	17	14
		流入地点	7.7	7.1	10	12
	茶屋ヶ坂池	表層	7.9	8.2	11	6
		下層	7.1	8.8	19	12
		流入地点	7.8	7.9	20	24

採水日及び前日の降水量（資料編）

区分	採水日	2日間の降水量（mm）
降雨時	平成4年6月24日	50.0
	平成4年9月26日	25.5

採水日及び前日の降水量（資料編）

区分	採水日	2日間の降水量（mm）
非降雨時	平成3年4月15日	0.0
	平成4年11月19日	0.0

水質汚濁調査結果

参考として湖沼B類型の環境基準と比較した結果、非降雨時については、pHは茶屋ヶ坂池の下層で若干これを上回る時が見られ、SSは茶屋ヶ坂池の下層及び流入地点並びに猫ヶ洞池の下層でこれを上回る時が見られた。

また降雨時については、pHは両池共に過去に行われた水質調査結果よりも高い値を示していた。SSは茶屋ヶ坂池の流入地点で高い値が見られた他は、両池共過去の調査結果の範囲内にあった。

なお、茶屋ヶ坂池の流入地点でSSの高い値がみられた原因は、前日の降雨により、北希望荘敷地内において建設中であった上水道ポンプ室（地下）に多量の濁水が入り込み、ポンプにより側溝に排水したためと思われた。

千種台地区住宅整備事業4年度環境影響評価事後調査報告書（平成5年1月）より

(3) 平成5年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/ℓ)	
降雨時	調査年月日		H 5. 9/23	H 6. 1/18	H 5. 9/23	H 6. 1/18
	猫ヶ洞池	表層	7.1	7.5	10	9
		下層	7.1	7.3	13	10
		流入地点	7.1	7.3	12	7
	茶屋ヶ坂池	表層	8.7	7.3	5	4
		下層	7.0	7.3	17	7
		流入地点	8.6	8.8	11	3
非降雨時	調査年月日		H 5. 8/26	H 5.11/29	H 5. 8/26	H 5.11/29
	猫ヶ洞池	表層	7.9	7.1	2	10
		下層	7.5	7.2	3	15
		流入地点	8.0	7.2	2	9
	茶屋ヶ坂池	表層	7.1	7.5	1	2
		下層	7.0	7.4	2	8
		流入地点	7.7	7.7	＜1	3

採水日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量 (mm)	採水時間	
降雨時	平成5年 9月23日	雨	27.0	猫ヶ洞池 茶屋ヶ坂池	午後3時 午後2時
	平成6年 1月18日	晴	13.5	猫ヶ洞池 茶屋ヶ坂池	午前11時 午前10時
非降雨時	平成5年 8月26日	晴	0.0	猫ヶ洞池 茶屋ヶ坂池	午後3時 午後2時
	平成5年 11月29日	晴	0.0	猫ヶ洞池 茶屋ヶ坂池	午後2時 午後3時

水質汚濁調査結果

参考として湖沼B類型の環境基準と比較した結果、非降雨時は、両池共にその環境基準を満足するものであった。

なお、降雨時のpHについて9月に茶屋ヶ坂池の表層で過去の値と比べて比較的高い値（8.7）が見られたが、本工事区域は、茶屋ヶ坂池と流域を全く異にしており、原因については不明である。

千種台地区住宅整備事業5年度環境影響評価事後調査報告書（平成6年2月）より

(4) 平成6年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/ℓ)	
降雨時	調査年月日		H 7. 1/ 5	H 7. 2/27	H 7. 1/ 5	H 7. 2/27
	猫ヶ洞池	表層	7.3	7.7	10	12
		下層	7.3	7.7	10	12
		流入地点	7.2	7.4	8	12
	茶屋ヶ坂池	表層	7.4	7.4	5	6
		下層	7.4	7.4	5	6
		流入地点	9.3	7.7	4	13
非降雨時	調査年月日		H 6. 8/11	H 6.10/26	H 6. 8/11	H 6.10/26
	猫ヶ洞池	表層	8.8	7.8	22	10
		下層	8.9	7.6	26	15
		流入地点	8.4	7.3	91	7
	茶屋ヶ坂池	表層	9.2	7.3	15	3
		下層	7.1	7.3	20	9
		流入地点	7.7	8.3	6	8

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H7. 1/ 5	晴	27.0	猫ヶ洞池 午前10時30分 茶屋ヶ坂池 午後 1時30分
	H7. 2/27	晴	2.5	猫ヶ洞池 午後 1時30分 茶屋ヶ坂池 午前10時30分
非降雨時	H6. 8/11	晴	0.0	猫ヶ洞池 午後 2時 茶屋ヶ坂池 午前11時
	H6.10/26	晴	0.0	猫ヶ洞池 午前11時 茶屋ヶ坂池 午後 2時

水質汚濁調査結果

参考として、湖沼B類型の環境基準と非降雨時での現地調査結果とを比較した結果、猫ヶ洞池では、8月に表層、下層のpH(8.8,8.9)、SS(22mg/ℓ,26mg/ℓ)及び流入地点のSS(91mg/ℓ)で高い値を示したが、8月の猫ヶ洞池は渇水状態であり、水の流入が無かったことから、本工事とは原因を全く異にするものである。また、茶屋ヶ坂池では、8月の表層のpH(9.2),下層のSS(20mg/ℓ)で高い値を示したが、本工事区域は茶屋ヶ坂池流域内ではなく、本工事とは原因を全く異にするものである。

一方、降雨時につては、環境基準を参考として比較することはできない。そこで、過去の値と比べてみると、茶屋ヶ坂池流入地点での1月のpHは9.3と高い値を示したが、本工事区域は、茶屋ヶ坂池と流域を全く異にしており、原因については不明である。

千種台地区住宅整備事業6年度環境影響評価事後調査報告書（平成7年3月）より

(5) 平成7年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H 7. 7/ 4	H 7.10/ 2	H 7. 7/ 4	H 7.10/ 2
	猫ヶ洞池	表　層	7.5	7.7	22	9
		下　層	7.4	7.3	31	13
		流入地点	7.3	7.6	19	7
	茶屋ヶ坂池	表　層	7.3	7.4	17	5
		下　層	7.3	7.4	24	6
		流入地点	8.7	8.7	14	3
非降雨時	調査年月日		H 7. 8/ 7	H 8. 1/22	H 7. 8/ 7	H 8. 1/22
	猫ヶ洞池	表　層	8.3	7.6	7	13
		下　層	7.9	7.6	13	16
		流入地点	8.1	7.9	7	11
	茶屋ヶ坂池	表　層	8.3	7.4	1	1
		下　層	7.8	7.4	3	9
		流入地点	7.9	7.8	＜1	6

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区　分	調査日	天候	2日間の降水量（mm）	採　水　時　間
降雨時	H7. 7/ 4	大雨	96.5	猫ヶ洞池　午後 1時30分 茶屋ヶ坂池　午前11時
	H7.10/ 2	雨後曇	43.5	猫ヶ洞池　午後 1時30分 茶屋ヶ坂池　午前11時30分
非降雨時	H7. 8/ 7	晴	0.0	猫ヶ洞池　午後 1時30分 茶屋ヶ坂池　午前11時30分
	H8. 1/22	曇時々雨後	0.0	猫ヶ洞池　午後 1時 茶屋ヶ坂池　午前10時30分

水質汚濁調査結果

過去の値と比べてみると、降雨時については、猫ヶ洞池下層での７月のSSが、31mg/ℓと若干高い値を示した他は過去の調査結果の範囲内にあった。

一方、非降雨時については、pH及びSSともに過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業7年度環境影響評価事後調査報告書（平成8年4月）より

(6) 平成8年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H8. 6/25	H8.10/15	H8. 6/25	H8.10/15
	猫ヶ洞池	表層	9.0	8.2	13	20
		下層	7.6	7.6	20	22
		流入地点	8.6	7.5	15	46
	茶屋ヶ坂池	表層	7.8	7.2	3	7
		下層	7.2	7.3	38	8
		流入地点	6.9	9.5	1	9
非降雨時	調査年月日		H8. 8/31	H9. 1/10	H8. 8/31	H9. 1/10
	猫ヶ洞池	表層	8.6	7.6	9	14
		下層	8.0	7.5	9	16
		流入地点	7.2	7.5	10	14
	茶屋ヶ坂池	表層	7.7	7.6	3	4
		下層	7.5	7.7	5	5
		流入地点	8.5	8.0	5	6

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量（mm）	採水時間
降雨時	H8. 6/25	曇時雨々	64.5	猫ヶ洞池　午後 1時30分 茶屋ヶ坂池　午前11時30分
	H8.10/15	晴	49.5	猫ヶ洞池　午前11時30分 茶屋ヶ坂池　午前 9時30分
非降雨時	H8. 8/31	曇時雨々	0.0	猫ヶ洞池　午前11時30分 茶屋ヶ坂池　午前 9時30分
	H9. 1/10	晴	0.0	猫ヶ洞池　午前11時30分 茶屋ヶ坂池　午前10時00分

水質汚濁調査結果

過去の値と比べてみると、降雨時については、6月の猫ヶ洞池表層のpH(9.0)、10月の流入地点のSS(46mg/ℓ)、同月の茶屋ヶ坂池流入地点のpH(9.5)が若干高い値を示した。

一方、非降雨時については、8月の茶屋ヶ坂池流入地点のpH(8.5)が若干高い値を示した。

本工事区域は、猫ヶ洞池及び茶屋ヶ坂池の流域内ではなく、本工事とは原因を全く異にするものである。また、夏季における表層や流入地点のpHの上昇は、植物プランクトンによる炭酸同化作用の影響によるものと考えられる。

他の調査結果については、過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業8年度環境影響評価事後調査報告書（平成9年3月）より

(7) 平成9年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/ℓ)	
降雨時	調査年月日		H 9. 7/12	H10. 1/ 5	H 9. 7/12	H10. 1/ 5
	猫ヶ洞池	表層	7.2	7.3	18	13
		下層	7.1	7.3	28	15
		流入地点	7.4	7.3	13	10
	茶屋ヶ坂池	表層	7.3	7.7	5	4
		下層	7.0	7.7	10	6
		流入地点	8.5	9.3	5	8
非降雨時	調査年月日		H 9. 8/13	H 9.10/30	H 9. 8/13	H 9.10/30
	猫ヶ洞池	表層	9.1	8.2	6	35
		下層	7.9	7.6	10	33
		流入地点	8.8	7.7	8	19
	茶屋ヶ坂池	表層	9.8	7.2	1	10
		下層	7.1	7.3	2	10
		流入地点	7.8	7.9	6	4

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H 9. 7/12	大雨	113.0	猫ヶ洞池 午前11時30分 茶屋ヶ坂池 午前10時00分
	H10. 1/ 5	晴薄曇時	10.0	猫ヶ洞池 午前10時00分 茶屋ヶ坂池 午前11時30分
非降雨時	H 9. 8/13	曇晴時々	0.0	猫ヶ洞池 午後 0時30分 茶屋ヶ坂池 午前11時00分
	H 9.10/30	曇晴時々	0.0	猫ヶ洞池 午後 0時30分 茶屋ヶ坂池 午前11時00分

水質汚濁調査結果

過去の値と比べてみると、非降雨時については、8月の猫ヶ洞池表層、流入地点のpH（9.1、8.8）、同月の茶屋ヶ坂池表層のpH（9.8）が、また10月の猫ヶ洞池表層、下層のSS（35mg/ℓ、33mg/ℓ）が若干高い値を示した。

一方、降雨時については、過去の調査結果の範囲内にあった。

本工事区域は、猫ヶ洞池及び茶屋ヶ坂池の流域内ではなく、本工事とは原因を全く異とするものである。また、夏季における表層や流入地点のpHの上昇は、植物プランクトンによる炭酸同化作用の影響によるものと考えられる。一方、10月の猫ヶ洞池のSSの上昇は、降水量の減少による水位低下の影響によるものと考えられる。

千種台地区住宅整備事業9年度環境影響評価事後調査報告書（平成10年3月）より

(8) 平成10年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H10. 6/15	H10.10/ 2	H10. 6/15	H10.10/ 2
	猫ヶ洞池	表層	7.3	7.4	6	13
		下層	7.3	7.1	8	14
		流入地点	7.3	7.3	5	8
	茶屋ヶ坂池	表層	7.2	9.2	4	2
		下層	7.0	7.1	9	6
		流入地点	9.7	9.2	9	1
非降雨時	調査年月日		H10. 8/10	H11. 1/ 6	H10. 8/10	H11. 1/ 6
	猫ヶ洞池	表層	7.6	7.6	5	10
		下層	7.3	7.5	8	13
		流入地点	7.4	7.6	7	8
	茶屋ヶ坂池	表層	7.2	7.5	6	2
		下層	6.9	7.6	8	3
		流入地点	8.3	8.1	1	2

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量（mm）	採水時間
降雨時	H10. 6/15	曇時々晴	29.5	猫ヶ洞池　１０：４５ 茶屋ヶ坂池　１１：３０
	H10.10/ 2	晴一時曇	46.0	猫ヶ洞池　１３：３０ 茶屋ヶ坂池　１１：３０
非降雨時	H10. 8/10	曇時々晴	0.0	猫ヶ洞池　１３：３０ 茶屋ヶ坂池　１１：１５
	H11. 1/ 6	晴時々曇	0.0	猫ヶ洞池　１１：３０ 茶屋ヶ坂池　１０：３０

水質汚濁調査結果

pHは、過去の値と比べてみると、降雨時については、6月の茶屋ヶ坂池流入地点のpH（9.7）、10月の茶屋ヶ坂池流入地点及び表層のpH（9.2）が高い値を示した。

本事業区域の内、はざま荘は、猫ヶ洞池及び茶屋ヶ坂池の流域内にあるが、今年度の工種は、除却及び造成工事であることから、茶屋ヶ坂池表層及び流入地点のpHの上昇は、本工事と原因を全く異とするものと考えられる。

また、非降雨時については、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内もしくはそれより低い値を示した。

千種台地区住宅整備事業10年度環境影響評価事後調査報告書（平成11年3月）より

(9) 平成11年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/ℓ)	
降雨時	調査年月日		H11. 6/25	H11.10/ 8	H11. 6/25	H11.10/ 8
	猫ヶ洞池	表層	7.6	7.7	8	11
		下層	7.4	7.7	15	12
		流入地点	7.5	7.6	8	14
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.2	12	18
		下層	7.2	7.3	13	20
		流入地点	8.4	8.3	3	＜1
非降雨時	調査年月日		H11. 8/ 6	H12. 1/19	H11. 8/ 6	H12. 1/19
	猫ヶ洞池	表層	8.0	7.6	8	9
		下層	7.8	7.6	9	13
		流入地点	7.9	7.5	10	9
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.6	15	14
		下層	7.6	7.5	20	17
		流入地点	8.1	7.9	＜1	4

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H11. 6/25	雨	68.5	猫ヶ洞池　14：00 茶屋ヶ坂池　15：00
	H11.10/ 8	曇時々雨	23.0	猫ヶ洞池　11：16 茶屋ヶ坂池　10：07
非降雨時	H11. 8/ 6	曇時一晴薄	0.0	猫ヶ洞池　11：18 茶屋ヶ坂池　9：50
	H12. 1/19	晴	0.0	猫ヶ洞池　10：26 茶屋ヶ坂池　9：15

水質汚濁調査結果

pHは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内もしくはそれより低い値を示した。

千種台地区住宅整備事業11年度環境影響評価事後調査報告書（平成12年3月）より

(10) 平成12年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/ℓ)	
降雨時	調査年月日		H12. 6/26	H12.10/24	H12. 6/26	H12.10/24
	猫ヶ洞池	表層	7.6	7.5	18	11
		下層	7.2	7.3	22	16
		流入地点	8.1	7.3	19	10
	茶屋ヶ坂池	表層	7.9	7.2	9	7
		下層	7.7	7.2	14	12
		流入地点	8.9	8.8	2	2
非降雨時	調査年月日		H12. 8/ 4	H13. 1/12	H12. 8/ 4	H13. 1/12
	猫ヶ洞池	表層	8.8	7.6	5	7
		下層	7.4	7.7	8	8
		流入地点	8.2	7.6	8	7
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.5	12	9
		下層	7.6	7.5	11	9
		流入地点	7.9	8.0	1	2

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H12. 6/26	曇一時雨	67.5	猫ヶ洞池　１１：３６ 茶屋ヶ坂池　１０：０５
	H12.10/24	晴一時曇	36.5	猫ヶ洞池　１１：１９ 茶屋ヶ坂池　９：５８
非降雨時	H12. 8/ 4	曇後晴雷伴う	0.0	猫ヶ洞池　１１：３０ 茶屋ヶ坂池　１０：０５
	H13. 1/12	晴時々曇	0.0	猫ヶ洞池　１１：１０ 茶屋ヶ坂池　９：４５

水質汚濁調査結果

pHは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内にあった。
SSは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業12年度環境影響評価事後調査報告書（平成13年3月）より

(11) 平成13年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H13. 9/11	H13.12/14	H13. 9/11	H13.12/14
	猫ヶ洞池	表層	7.2	7.3	13	11
		下層	7.0	7.3	15	12
		流入地点	7.6	7.2	11	9
	茶屋ヶ坂池	表層	7.0	7.3	8	13
		下層	7.0	7.2	8	13
		流入地点	8.4	7.8	1	2
非降雨時	調査年月日		H13.10/ 4	H14. 2/15	H13.10/ 4	H14. 2/15
	猫ヶ洞池	表層	8.2	7.6	7	11
		下層	7.3	7.6	8	11
		流入地点	7.7	7.6	13	10
	茶屋ヶ坂池	表層	7.3	7.6	9	9
		下層	7.2	7.6	12	10
		流入地点	7.8	7.4	1	3

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量（mm）	採水時間
降雨時	H13. 9/11	晴時々曇	69.0	猫ヶ洞池　１１：４５ 茶屋ヶ坂池　１０：３０
	H13.12/14	曇時々晴	18.0	猫ヶ洞池　１２：０５ 茶屋ヶ坂池　１０：４０
非降雨時	H13.10/ 4	曇	0.0	猫ヶ洞池　１１：３０ 茶屋ヶ坂池　１０：３０
	H14. 2/15	快晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：５０ 茶屋ヶ坂池　１０：３０

水質汚濁調査結果

pHは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内にあった。
SSは、過去の値と比べてみると、降雨時及び非降雨時ともに、過去の調査結果の範囲内であった。

千種台地区住宅整備事業13年度環境影響評価事後調査報告書（平成14年3月）より

(12) 平成14年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H14. 7/1	H14.10/2	H14. 7/1	H14.10/2
	猫ヶ洞池	表層	8.9	7.7	6	7
		下層	7.3	7.3	16	11
		流入地点	8.4	7.4	13	5
	茶屋ヶ坂池	表層	7.8	7.4	13	8
		下層	7.1	7.3	19	17
		流入地点	8.8	8.4	131	2
非降雨時	調査年月日		H14. 8/6	H15. 1/10	H14. 8/6	H15. 1/10
	猫ヶ洞池	表層	9.1	7.5	9	3
		下層	9.0	7.5	13	4
		流入地点	9.0	7.5	9	3
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.6	8	5
		下層	7.5	7.6	15	6
		流入地点	7.8	7.6	2	2

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量（mm）	採水時間
降雨時	H14. 7/1	雨時々曇	13.5	猫ヶ洞池　１１：５０ 茶屋ヶ坂池　１０：３５
	H14.10/2	晴時々曇	75.0	猫ヶ洞池　１２：３０ 茶屋ヶ坂池　１０：４０
非降雨時	H14. 8/6	快晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：１５ 茶屋ヶ坂池　１０：００
	H15. 1/10	快晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：２０ 茶屋ヶ坂池　１０：１４

水質汚濁調査結果

pHは、過去の値と比べてみると、猫ヶ洞池の非降雨時において、下層及び流入地点が過去の調査結果の範囲を上回っていたが、工事が水質に影響すると考えられる降雨時においては、猫ヶ洞池、茶屋ヶ坂池とともに過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、茶屋ヶ坂池の降雨時において、流入地点が過去の調査結果の範囲を上回っていた。しかしながら、この時期における茶屋ヶ坂池流域内の工事は北十字荘の本体躯体工事であり、濁水の発生はほとんどないと考えられることから、本事業以外の要因と推察された。その他の時期については、過去の調査結果の範囲内であった。

千種台地区住宅整備事業14年度環境影響評価事後調査報告書（平成15年3月）より

(13) 平成15年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池 ＼ 項目		pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H15. 7/22	H15. 10/14	H15. 7/22	H15. 10/14
	猫ヶ洞池	表層	8.3	7.2	2	10
		下層	7.3	7.3	11	10
		流入地点	7.6	7.4	6	15
	茶屋ヶ坂池	表層	8.4	7.2	6	14
		下層	8.5	7.4	7	15
		流入地点	9.8	11.0	20	123
非降雨時	調査年月日		H15. 9/1	H16. 1/13	H15. 9/1	H16. 1/13
	猫ヶ洞池	表層	8.9	7.5	9	5
		下層	7.3	7.5	13	6
		流入地点	8.6	7.4	7	6
	茶屋ヶ坂池	表層	7.8	7.5	5	4
		下層	7.8	7.5	8	5
		流入地点	9.3	7.7	11	4

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量（mm）	採水時間
降雨時	H15. 7/22	晴時々薄曇	13.0	猫ヶ洞池　１１：５０ 茶屋ヶ坂池　１０：１０
	H15. 10/14	曇後雨	60.9	猫ヶ洞池　１１：４５ 茶屋ヶ坂池　１０：２０
非降雨時	H15. 9/1	曇時々晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：５５ 茶屋ヶ坂池　９：５０
	H16. 1/13	曇時々晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：２５ 茶屋ヶ坂池　１０：００

水質汚濁調査結果

pHは、工事により水質に影響を及ぼすと考えられる降雨時において、過去の調査結果と比べてみると、茶屋ヶ坂池の下層及び流入地点において、過去の調査結果の範囲を上回っていた。しかしながら、茶屋ヶ坂池の下層が過去の調査結果の範囲を上回った７月には、この流域内において本工事を行っていないこと、流入地点が上回った10月には、一部の事業区域で除却工事を行っていたが、この工事からアルカリ排水が発生することはないと考えられることから、本事業以外による要因と推察された。

また、この他の時期については、非降雨時において、茶屋ヶ坂池の流入地点で過去の調査結果の範囲を上回っていたが、それ以外については、過去の調査結果の範囲内となっていた。

SSは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の最大値を下回っていた。

千種台地区住宅整備事業15年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成16年3月）より

(14) 平成16年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS（mg/ℓ）	
降雨時	調査年月日		H16. 8/18	H16.11/ 1	H16. 8/18	H16.11/ 1
	猫ヶ洞池	表層	7.5	7.1	4	7
		下層	6.7	7.1	19	9
		流入地点	7.7	7.0	3	6
	茶屋ヶ坂池	表層	7.4	7.1	11	7
		下層	7.2	7.0	16	11
		流入地点	7.9	8.0	4	1
非降雨時	調査年月日		H16. 7/22	H17. 1/13	H16. 7/22	H17. 1/13
	猫ヶ洞池	表層	7.3	7.3	6	5
		下層	7.1	7.2	9	6
		流入地点	7.1	7.2	8	6
	茶屋ヶ坂池	表層	7.4	7.4	10	6
		下層	7.0	7.4	11	7
		流入地点	7.8	7.7	3	1

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量（mm）	採水時間
降雨時	H16. 8/18	晴	25.0	猫ヶ洞池　１２：５０ 茶屋ヶ坂池　１０：１５
	H16.11/ 1	晴	83.0	猫ヶ洞池　１２：５５ 茶屋ヶ坂池　１０：２０
非降雨時	H16. 7/22	晴	0.0	猫ヶ洞池　１４：２０ 茶屋ヶ坂池　１０：２５
	H17. 1/13	晴	0.0	猫ヶ洞池　１２：５５ 茶屋ヶ坂池　１０：３０

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。
SSは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業16年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成17年3月）より

(15) 平成17年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/ℓ)	
降雨時	調査年月日		H17. 7/ 5	H17.11/ 7	H17. 7/ 5	H17.11/ 7
	猫ヶ洞池	表層	7.3	7.2	7	20
		下層	7.1	7.2	12	22
		流入地点	7.3	7.0	8	20
	茶屋ヶ坂池	表層	7.4	7.6	6	17
		下層	7.4	7.4	16	32
		流入地点	7.8	8.1	2	5
非降雨時	調査年月日		H17. 8/19	H18. 1/10	H17. 8/19	H18. 1/10
	猫ヶ洞池	表層	7.4	7.5	12	8
		下層	7.2	7.4	15	9
		流入地点	7.2	7.6	29	5
	茶屋ヶ坂池	表層	7.3	8.0	13	4
		下層	7.2	7.9	12	9
		流入地点	8.0	7.8	5	5

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H17. 7/ 5	晴	86.5	猫ヶ洞池　１１：３０ 茶屋ヶ坂池　１０：１０
	H17.11/ 7	晴	41.0	猫ヶ洞池　１３：０７ 茶屋ヶ坂池　１１：０１
非降雨時	H17. 8/19	晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：４０ 茶屋ヶ坂池　１０：２０
	H18. 1/10	晴	0.0	猫ヶ洞池　１１：２０ 茶屋ヶ坂池　１０：１０

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。
SSは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業17年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成18年3月）より

(16) 平成18年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H18. 7/ 6	H18.10/24	H18. 7/ 6	H18.10/24
	猫ヶ洞池	表層	7.4	7.4	3	9
		下層	7.2	7.3	6	10
		流入地点	7.3	7.2	4	19
	茶屋ヶ坂池	表層	7.2	7.2	9	9
		下層	7.3	7.2	12	10
		流入地点	7.7	7.6	2	5
非降雨時	調査年月日		H18. 8/ 7	H19. 1/16	H18. 8/ 7	H19. 1/16
	猫ヶ洞池	表層	7.5	7.0	4	5
		下層	7.4	7.1	5	6
		流入地点	7.3	7.0	3	5
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.2	6	5
		下層	7.3	7.3	9	5
		流入地点	7.3	7.2	3	5

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H18. 7/6	晴	12.5	猫ヶ洞池 １２：５０ 茶屋ヶ坂池 １０：１５
	H18.10/24	晴	19.0	猫ヶ洞池 １３：３０ 茶屋ヶ坂池 １０：１０
非降雨時	H18. 8/7	晴	0.0	猫ヶ洞池 １１：４０ 茶屋ヶ坂池 １０：０５
	H19. 1/16	晴	0.0	猫ヶ洞池 １３：２５ 茶屋ヶ坂池 １０：３０

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、過去の調査結果と比べると、猫ヶ洞池の降雨時調査を除いた全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。なお、猫ヶ洞池の降雨時は、SS濃度が低く、過去の最低値を下回った。

千種台地区住宅整備事業18年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成19年3月）より

(17) 平成19年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池 ＼ 項目		pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H19. 7/11	H19.11/12	H19. 7/11	H19.11/12
	猫ヶ洞池	表層	7.4	7.3	6	11
		下層	7.2	7.3	7	12
		流入地点	7.3	7.3	6	12
	茶屋ヶ坂池	表層	7.4	7.2	8	11
		下層	7.1	7.2	10	20
		流入地点	8.1	7.8	<1	2
非降雨時	調査年月日		H19. 8/27	H20. 1/22	H19. 8/27	H20. 1/22
	猫ヶ洞池	表層	8.8	7.3	9	7
		下層	7.8	7.3	11	8
		流入地点	8.3	7.3	10	7
	茶屋ヶ坂池	表層	7.7	7.7	8	4
		下層	7.3	7.7	13	4
		流入地点	7.7	7.7	<1	2

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H19. 7/11	晴	34.0	猫ヶ洞池 １５：２０ 茶屋ヶ坂池 １４：１０
	H19.11/12	晴	9.0	猫ヶ洞池 １３：３０ 茶屋ヶ坂池 １１：２５
非降雨時	H19. 8/27	晴	0.0	猫ヶ洞池 １４：００ 茶屋ヶ坂池 １０：４０
	H20. 1/22	晴	0.0	猫ヶ洞池 １４：１５ 茶屋ヶ坂池 １２：００

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。
SSは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業19年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成20年3月）より

(18) 平成20年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池 ＼ 項目		pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H20. 6/30	H20.10/15	H20. 6/30	H20.10/15
	猫ヶ洞池	表層	7.5	7.3	6	9
		下層	7.3	7.3	11	10
		流入地点	7.5	7.3	6	9
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	8.2	8	12
		下層	7.5	8.2	11	15
		流入地点	8.8	8.5	190	3
非降雨時	調査年月日		H20. 9/8	H21. 1/6	H20. 9/8	H21. 1/6
	猫ヶ洞池	表層	7.7	7.3	4	9
		下層	7.6	7.3	5	10
		流入地点	7.6	7.1	4	10
	茶屋ヶ坂池	表層	7.8	7.6	4	9
		下層	7.6	7.8	6	9
		流入地点	7.9	7.8	7	25

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H20. 6/30	晴	67.0	猫ヶ洞池 １４：００ 茶屋ヶ坂池 １２：００
	H20.10/15	晴	22.0	猫ヶ洞池 １４：１０ 茶屋ヶ坂池 １２：００
非降雨時	H20. 9/ 8	晴	0.0	猫ヶ洞池 １４：３５ 茶屋ヶ坂池 １１：４０
	H21. 1/ 6	晴	0.0	猫ヶ洞池 １１：３０ 茶屋ヶ坂池 １０：２５

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、茶屋ヶ坂池の降雨時・非降雨時において、流入地点が過去の調査結果の範囲を上回っていた。しかしながら、この時期において茶屋ヶ坂池流域内で工事は行われていないことから、本事業以外の要因と推察された。その他の地点については、過去の調査結果の範囲内にあった。

千種台地区住宅整備事業20年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成21年3月）より

(19) 平成21年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H21.7/1	H21.11/12	H21.7/1	H21.11/12
	猫ヶ洞池	表層	7.6	7.3	3.6	41
		下層	7.1	7.5	13	23
		流入地点	7.5	7.3	4.0	40
	茶屋ヶ坂池	表層	7.6	7.8	11	19
		下層	7.7	7.4	18	44
		流入地点	8.8	10.5	55	150
非降雨時	調査年月日		H21.8/20	H22.1/18	H21.8/20	H22.1/18
	猫ヶ洞池	表層	7.6	7.5	4.5	3
		下層	7.5	7.5	6.8	4
		流入地点	7.6	7.4	5.1	3
	茶屋ヶ坂池	表層	8.5	7.6	7.3	4
		下層	8.1	7.7	9.3	4
		流入地点	8.3	7.4	4.7	6

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H21.7/1	曇	71.0	猫ヶ洞池 12：45 茶屋ヶ坂池 10：45
	H21.11/12	晴	121.5	猫ヶ洞池 13：45 茶屋ヶ坂池 11：00
非降雨時	H21.8/20	晴	0	猫ヶ洞池 13：20 茶屋ヶ坂池 10：30
	H22.1/18	晴	0	猫ヶ洞池 14：00 茶屋ヶ坂池 11：00

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、猫ヶ洞池の降雨時の表層、茶屋ヶ坂池の降雨時の下層地点において、過去の調査結果の範囲を上回っていた。しかしながら、この時期において猫ヶ洞池及び茶屋ヶ坂池流域内で本事業に係る工事は行われておらず、本事業以外の要因と推察された。

－過去の範囲を上回るまたはそれに近いＳＳ、ｐＨがみられた11月降雨時調査の補足説明－

前２日の降水量は121.5mmであった。（これまでの調査では最大雨量）

猫ヶ洞池の表層で41 mg/l、茶屋ヶ坂池の下層で44 mg/lのＳＳが確認されたが、非降雨時も含めると過年度にも同程度の値が確認されている。また、本事業に係る今年度の工事は自由ヶ丘周辺で行われているため、ｐＨ、ＳＳの数値上昇は本事業によるものではないと考えられる。

また、茶屋ヶ坂池の流入部において、ＳＳが150mg/l、ｐＨが10.5となった。同地点は過年度にも高い値がみられたが、本事業の影響ではなかった。採水当日、茶屋ヶ坂池周辺で道路・建設工事等は行われていないため、原因の特定は困難であるが、ＳＳ分析時のろ紙がやや白色傾向にあったことから、日々流域に堆積している埃・コンクリート灰等が降雨により洗い流され、数値上昇につながったのではないかと推察される

千種台地区住宅整備事業21年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成22年3月）より

(20) 平成22年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池 ＼ 項目		pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H22.7/15	H22.11/1	H22.7/15	H22.11/1
	猫ヶ洞池	表層	7.0	7.4	10	11
		下層	6.9	7.3	10	16
		流入地点	7.4	7.2	5	9
	茶屋ヶ坂池	表層	7.4	7.6	12	14
		下層	7.4	7.5	13	16
		流入地点	8.2	8.6	1未満	1未満
非降雨時	調査年月日		H22.8/23	H23.1/13	H22.8/23	H23.1/13
	猫ヶ洞池	表層	8.2	7.3	3	4
		下層	7.7	7.4	7	5
		流入地点	8.0	7.3	3	3
	茶屋ヶ坂池	表層	8.1	7.0	15	3
		下層	7.9	7.0	17	4
		流入地点	8.1	7.6	2	2

採水前日及び前々日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	採水前２日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H22.7/15	曇	35.0	猫ヶ洞池 12：30 茶屋ヶ坂池 11：00
	H22.11/1	晴	52.5	猫ヶ洞池 14：10 茶屋ヶ坂池 11：35
非降雨時	H22.8/23	晴	0	猫ヶ洞池 13：55 茶屋ヶ坂池 10：50
	H23.1/13	晴	0	猫ヶ洞池 14：15 茶屋ヶ坂池 11：10

注）降水量は名古屋地方気象台

水質汚濁調査結果

pHは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、茶屋ヶ坂池の非降雨時の表層地点において、過去の調査結果の最大値と同程度の値がみられた。しかしながら、この時期において茶屋ヶ坂池流域内で本事業に係る工事は行われておらず、本事業以外の要因（アオコの発生）と推察された。（愛工大の駐車場整備に係る擁壁補強工事が行われているが、茶屋ヶ坂池流域外である。）その他の地点については、過去の調査結果の範囲内にあった。

－過去の範囲に近いＳＳがみられた８月非降雨時調査の補足説明－

前２日の降水量は 0mm であった。（無降水期間：８日）

茶屋ヶ坂池の表層で 15 mg/l のＳＳが確認されたが、同地点は過年度にも同程度の値が確認されている。採水当日は水温が高く（約 32℃）、水面が緑色を呈しており、ＳＳ分析時のろ紙も緑色をしていたため、アオコの発生によりＳＳがやや高くなったと推察される。

千種台地区住宅整備事業22年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成23年3月）より

(21) 平成23年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池	項目	pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H23.7.8	H23.10.6	H23.7.8	H23.10.6
	猫ヶ洞池	表層	7.2	7.3	3	4
		下層	7.0	7.2	6	4
		流入地点	7.1	7.3	3	4
	茶屋ヶ坂池	表層	7.9	7.6	16	11
		下層	7.6	7.4	20	11
		流入地点	8.5	8.6	2	<1
非降雨時	調査年月日		H23.8.10	H24.1.18	H23.8.10	H24.1.18
	猫ヶ洞池	表層	7.6	7.4	4	5
		下層	6.9	7.4	8	7
		流入地点	7.5	7.5	4	6
	茶屋ヶ坂池	表層	7.2	7.4	11	5
		下層	7.1	7.3	8	6
		流入地点	9.1	8.9	9	15

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H23.7.8	晴	28.5	猫ヶ洞池 15：30 茶屋ヶ坂池 14：20
	H23.10.6	晴	34.0	猫ヶ洞池 13：50 茶屋ヶ坂池 10：50
非降雨時	H23.8.10	晴	0	猫ヶ洞池 13：55 茶屋ヶ坂池 10：50
	H24.1.18	晴	0	猫ヶ洞池 13：45 茶屋ヶ坂池 10：45

注）降水量は名古屋地方気象台

水質汚濁調査結果

pHは、茶屋ヶ坂池の非降雨時の流入地点において、過去の調査結果の最大値と同程度の値がみられた。しかしながら、今年度は本事業による工事は行われておらず、本事業以外の要因と推察された。その他の地点については、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、過去の調査結果と比べると、ほぼ全ての時期において過去の調査結果の範囲内にあった。

－過去の最大値に近いpHがみられた8月及び1月非降雨時調査の補足説明－

前2日の降水量は0mmであった。（8月無降水期間：7日、1月無降水期間：22日）

茶屋ヶ坂池の流入地点で過去の最大値に近い値であるpH 9.1(8月)及びpH8.9(1月)が確認されたが、今年度は工事が行われていないため、本事業による影響ではない。また、調査当日は茶屋ヶ坂池周辺で道路・建設工事等は確認されておらず、原因の特定は困難であるが、SS分析時のろ紙がやや白色傾向にあったことから、埃やコンクリート灰等の影響により、数値上昇につながったのではないかと推察される

千種台地区住宅整備事業23年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成24年3月）より

(22) 平成24年度

調査日別測定結果（資料編）

区分	ため池 ＼ 項目		pH		SS (mg/L)	
降雨時	調査年月日		H24.6.20	H24.10.18	H24.6.20	H24.10.18
	猫ヶ洞池	表層	7.5	7.1	8	6
		下層	7.0	7.1	18	6
		流入地点	7.3	6.9	7	12
	茶屋ヶ坂池	表層	7.5	7.1	11	15
		下層	7.9	7.1	4	15
		流入地点	7.4	7.4	18	7
非降雨時	調査年月日		H24.8.20	H25.1.11	H24.8.20	H25.1.11
	猫ヶ洞池	表層	7.8	－	7	－
		下層	7.7	－	9	－
		流入地点	7.5	－	5	－
	茶屋ヶ坂池	表層	7.7	7.3	8	4
		下層	7.4	7.2	15	5
		流入地点	8.2	8.8	4	11

注）非降雨時調査における猫ヶ洞池は浚渫工事のため池の水が抜かれており、調査できなかった

採水当日及び前日の降水量等（資料編）

区分	調査日	天候	2日間の降水量 (mm)	採水時間
降雨時	H24.6.20	晴	53.0	猫ヶ洞池 13：45 茶屋ヶ坂池 11：20
	H24.10.18	晴	45.5	猫ヶ洞池 13：35 茶屋ヶ坂池 10：54
非降雨時	H24.8.20	晴	0	猫ヶ洞池 13：45 茶屋ヶ坂池 11：20
	H25.1.11	晴	0	猫ヶ洞池 調査せず 茶屋ヶ坂池 10：30

注）降水量は名古屋地方気象台

水質汚濁調査結果

pHは、猫ヶ洞池の降雨時の流入地点において、過去の調査結果の範囲を下回っていた。しかしながら、今年度は本事業による工事は行われておらず、本事業以外の要因と推察された。

その他の地点については、過去の調査結果の範囲内にあった。

SSは、過去の調査結果と比べると、全ての時期において過去の調査結果の範囲内にあった。

－猫ヶ洞池において過去の最低値を下回るpHがみられた降雨時調査（平成24年10月）の補足説明－

前2日の降水量は45.5mmであった。

同池の表層及び下層のpHはいずれも7.1であった。過去の調査結果の範囲内ではあるが、比較的低い値であり、池の水全体としてpHが低い状態にあったものと推察される。この要因の特定は困難であるが、同時に分析したSSは過去の調査結果の範囲内であり、水の濁りは特に無かったこと、コンクリート工事による影響はアルカリ液の使用によりpHは高い値になる傾向があること等から、工事による影響の可能性は低いと考えられる。

千種台地区住宅整備事業24年度環境影響評価事後調査委託報告書（平成25年3月）より

２．騒音

《調査実施年度》

騒音の事後調査（工事中）実施年度、測定対象施設及び工種は、表 7-3 に示すとおりである。

表 7-3　騒音の事後調査（工事中）の実施年度、対象施設及び工種

年　　度	対象施設名	工　　種
平成3年度	北希望荘	除却工事
		造成工事
		杭工事
		土工事
平成4年度	北希望荘	躯体工事
		外構工事
平成5年度	楠荘	除却工事
平成7年度	千有荘、北十字[西]荘	除却工事
		造成工事
平成9年度2次	霞ヶ丘荘（千有荘、北十字[西]荘）、西十字荘	造成工事
平成12年度	はざま荘（旧はざま荘、旧新十字荘）	外構工事
	金児荘（旧金児荘、旧中十字荘）	除却工事
平成13年度	北十字荘	造成工事
	東田代荘、北田代荘	除却工事
	はざま荘、新十字荘、センター地区	中学校除却工事
平成14年度	センター地区、楠北棟 はざま荘 金児荘	仮設工事・基礎工事 仮設工事・本体躯体工事 仮設工事・外構工事
平成15年度	南・中田代荘	仮設工事、除却工事
	東希望荘	仮設工事、除却工事
	センター地区、 楠北棟 楠南棟 徳川山・中十字荘	仮設工事、本体躯体工事 仮設工事、本体躯体工事、外構工事 仮設工事、基礎工事 造成工事
	東岳荘	仮設工事、除却工事
平成16年度	徳川山・中十字荘 千央閣	本体躯体工事 除却工事
	希望ヶ丘荘	造成工事
平成17年度	南・中田代荘	地下躯体工事
	東希望荘	造成工事
平成18年度	東希望荘（２次）	地上躯体工事
	金児荘（２期）	造成工事
	東希望荘（２次）	外構工事
平成20年度	（中十字荘跡地文化教育施設）	除却工事、基礎工事
平成21年度	千央閣	外構工事
	（中十字荘跡地文化教育施設）	基礎工事

《調査場所》

住居、学校等周辺の土地利用状況を考慮したうえで工事敷地境界の 2 箇所とした。

《調査時期》

当該工事期間において、騒音による周辺への影響が最も大きいと予想される時期に、工事が最盛期であると思われる時間帯を選び、午前 1 回、午後 1 回行った。
また、工事機械が稼働していない時間帯においても、午前 1 回、午後 1 回暗騒音を測定した。

《調査方法》

「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年厚生省・建設省令告示第 1 号）に基づき、時間率騒音レベルの 90％レンジの上端値（L_5）、下端値（L_{95}）及び中央値（L_{50}）を求めた。

《調査結果及び予測結果との比較》

振動の事後調査（工事中）結果は表 7-4 に示すとおり、躯体工事、除却工事、造成工事等各工事における工事騒音（暗騒音を含む：L_5）は、いずれの年度においても規制基準値である 85dB を下回っていた。

また、評価書届出時（平成 3 年 7 月）、再手続等免除申請時（平成 10 年 3 月）及び事業内容変更の届出時（平成 13 年 8 月）の予測結果と比較すると、平成 5 年度、平成 12 年度、平成 14 年度及び平成 15 年度を除き予測値を下回っている。これは予測時に使用を想定したパワーレベルの高い建設機械は使用せず、低騒音工法、低騒音機械を積極的に導入し、使用機器の配置等を十分に考慮する等の保全対策を実施したことによるものと考えられる。

平成 5 年度及び平成 12 年度に予測値を上回ったことについては、休憩時に測定した暗騒音も高かったことから本工事以外の要因も考えられる。平成 14 年度及び平成 15 年度については、隣接地区において本事業に係る別工事が同時に行われていたためと考えられる。

なお、平成 20 年度及び平成 21 年度における中十字荘跡地文化教育施設建設工事は、定期借地による民間建設であり名古屋市が実施する住宅建設事業ではないが、工事中の騒音調査を実施し、その結果も合わせて取りまとめた。

表 7-4　騒音の事後調査（工事中）結果及び予測値

（単位：dB(A)）

年　　度	対象施設名	工　　種	調査結果（最大値）	規制基準値	予測値
平成3年度	北希望荘	除却工事	52	85	－
		造成工事	70		－
		杭工事	67		－
		基礎工事	66		－
平成4年度	北希望荘	躯体工事	71		75
		外構工事	62		－
平成5年度	楠荘	除却工事	77		75
平成7年度	千有荘、北十字[西]荘	除却工事	68		－
		造成工事	70		81
平成9年度2次	霞ヶ丘荘（千有荘、北十字[西]荘）、西十字荘	造成工事 造成工事	70		81 77
平成12年度	はざま荘（旧はざま荘、旧新十字荘）	外構工事	73		72
	金児荘（旧金児荘、旧中十字荘）	除却工事	58		75
平成13年度	北十字荘	造成工事	79		－
	東田代荘、北田代荘	除却工事	75		(75)
	はざま荘、新十字荘、センター地区	中学校除却工事	72		－
平成14年度	センター地区、楠北棟 はざま荘 金児荘	仮設工事・基礎工事 仮設工事・本体躯体工事 仮設工事・外構工事	73		－
平成15年度	南・中田代荘	仮設工事、除却工事	73		(75)
	東希望荘	仮設工事、除却工事	70		－
	センター地区、 楠北棟 楠南棟 徳川山・中十字荘	仮設工事、本体躯体工事 仮設工事、本体躯体工事、外構工事 仮設工事、基礎工事 造成工事	74		72 73
	東岳荘	仮設工事、除却工事	72		72
平成16年度	徳川山・中十字荘 千央閣	本体躯体工事 除却工事	74		77
	希望ヶ丘荘	造成工事	69		77
平成17年度	南・中田代荘	地下躯体工事	58		77
	東希望荘	造成工事	76		77
平成18年度	東希望荘（２次）	地上躯体工事	75		77
	金児荘（２期）	造成工事	74		75
	東希望荘（２次）	外構工事	73		－
平成20年度	（中十字荘跡地文化教育施設）	除却工事、基礎工事	72		－
平成21年度	千央閣	外構工事	74		－
	（中十字荘跡地文化教育施設）	基礎工事	71		－

注）予測値は平成9年度2次までは評価書提出時（平成3年7月）、その後平成13年度までは再手続等免除申請時（平成10年3月）、平成14年度憩は事業内容変更の届出時（平成13年8月）の内容を示す。

《実施した保全対策の内容》

評価書に記述した保全対策を実施した。

(1)　工事に際しては、作業時間、作業区域、使用機器の配置等を十分に考慮した作業工程を作成した。

(2)　低騒音工法、低騒音機械を積極的導入し、工事構内における工事車両の低速運転・急発進禁止等の措置を取った。

(3)　必要に応じて仮囲いの高さを高くする等、周辺への影響を極力小さくするよう努めた。

(4)　工事実施時期には工事に関する説明等を実施し、周知に努めた。

《環境保全目標との適合状況》

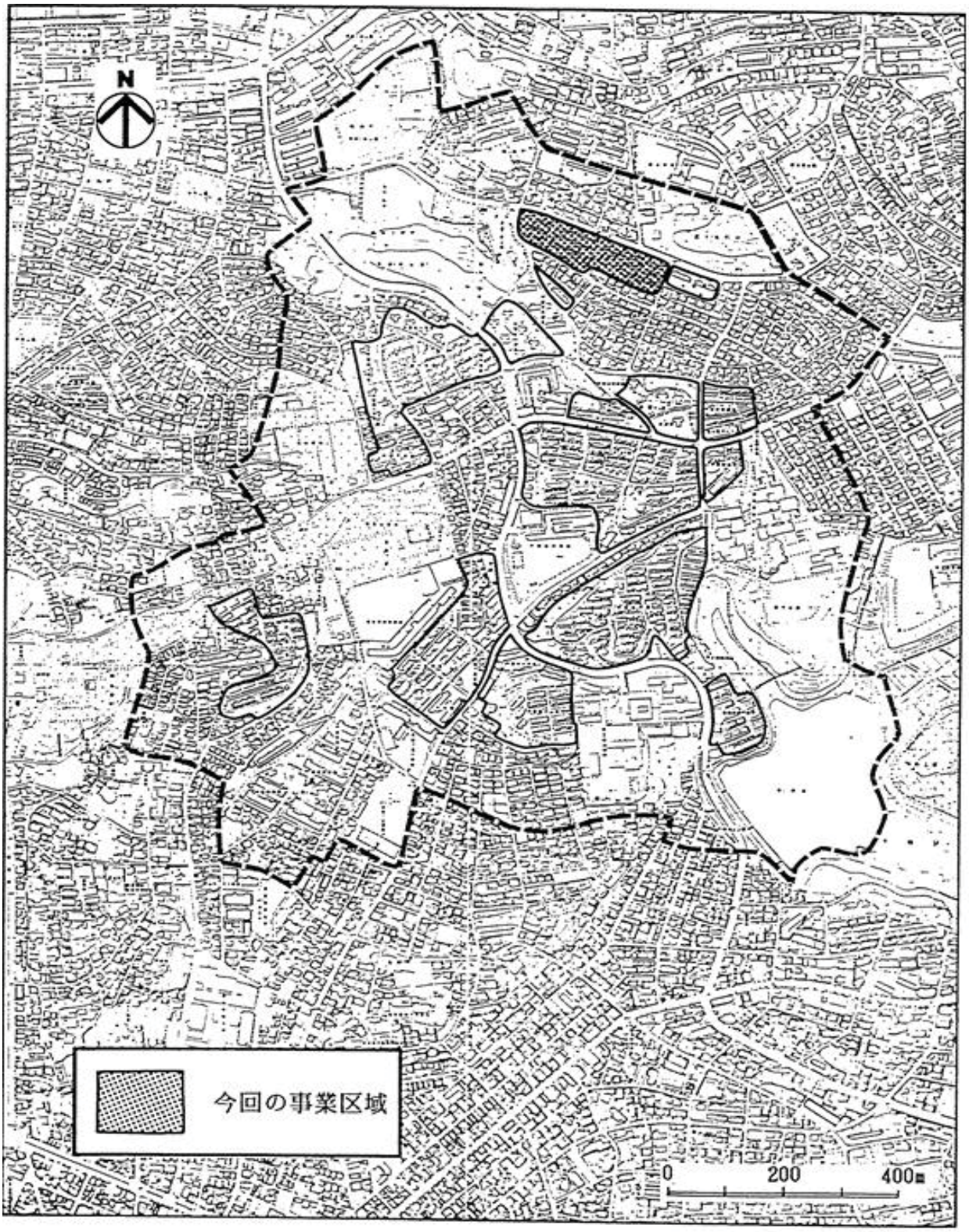
以上のような保全対策を講じた結果、特定建設作業に係る規制基準を満たしていた。

また、「周辺住民の日常生活に著しい支障を及ぼさないこと」とした環境保全目標も達成できたと考えられる。

各年度における調査地点、調査時の工事機械稼働状況、工事工程、調査日及び調査結果の詳細は次に示すとおりである。

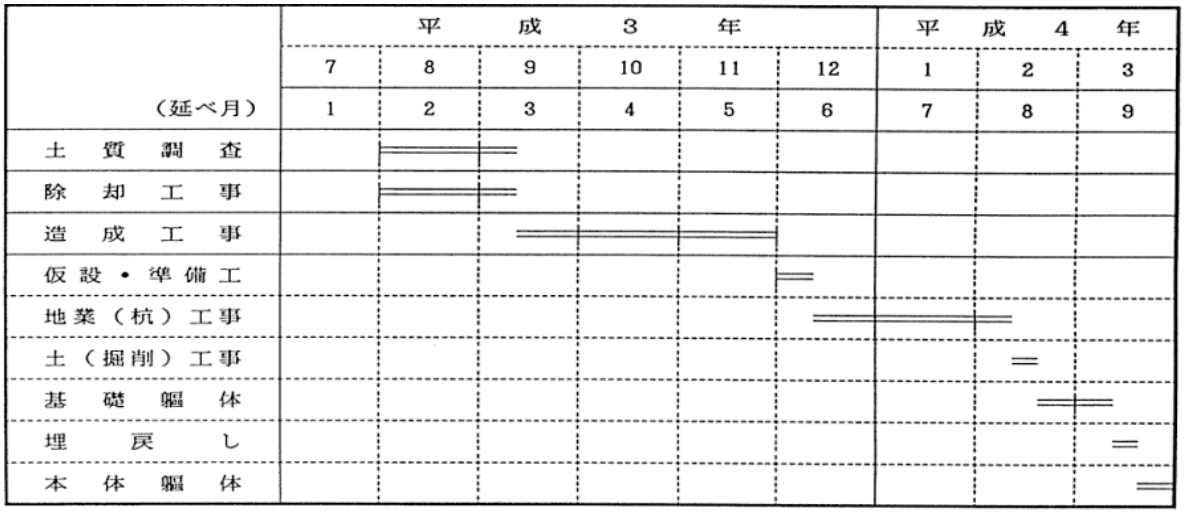
(1) 平成3年度　　騒音

事業実施場所



(1) 平成3年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

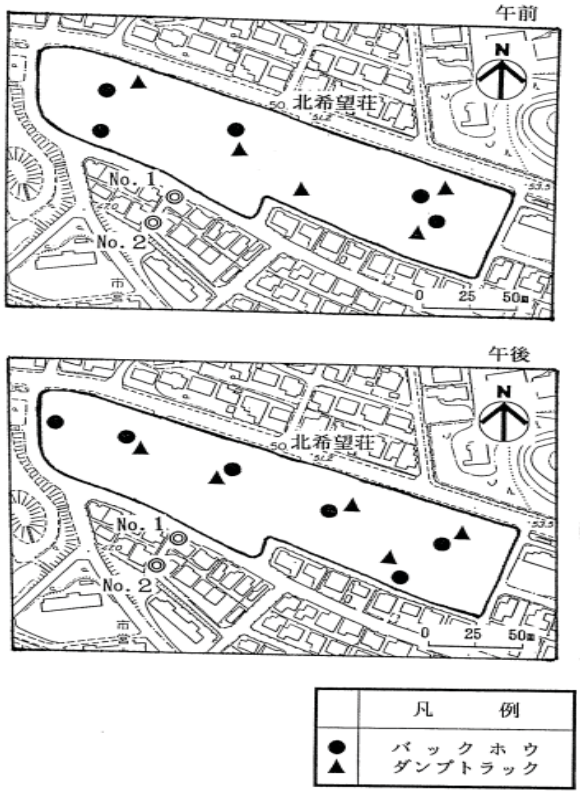
環境項目	調査期間	調査回数
水質汚濁	平成3年9月~平成4年3月	4　回
工事騒音	平成3年9月~平成4年2月	4　回
工事振動	平成3年9月~平成4年2月	4　回

騒音の調査時期

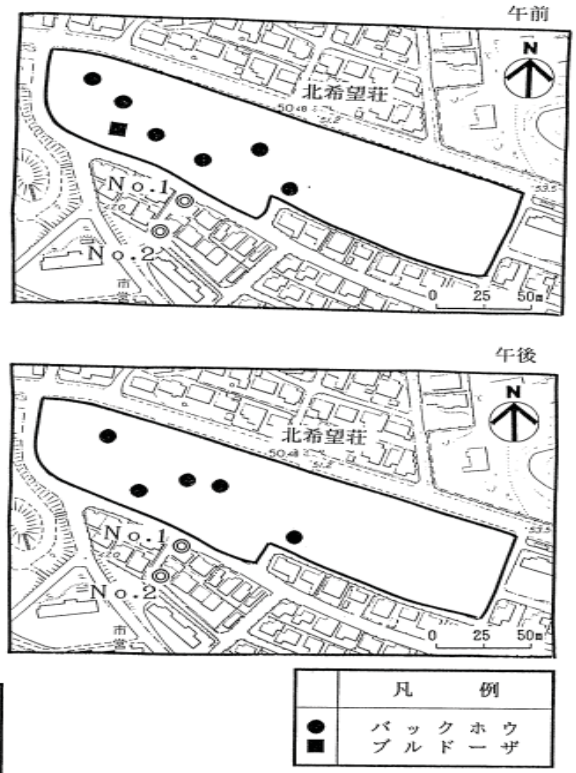
回数	工種	測定年月日
1	除却工事	平成３年９月３日（火）
2	造成工事	平成３年11月20日（水）
3	杭工事	平成４年１月10日（金）
4	土工事（基礎工事）	平成４年２月６日（木）

(1) 平成3年度　　騒音

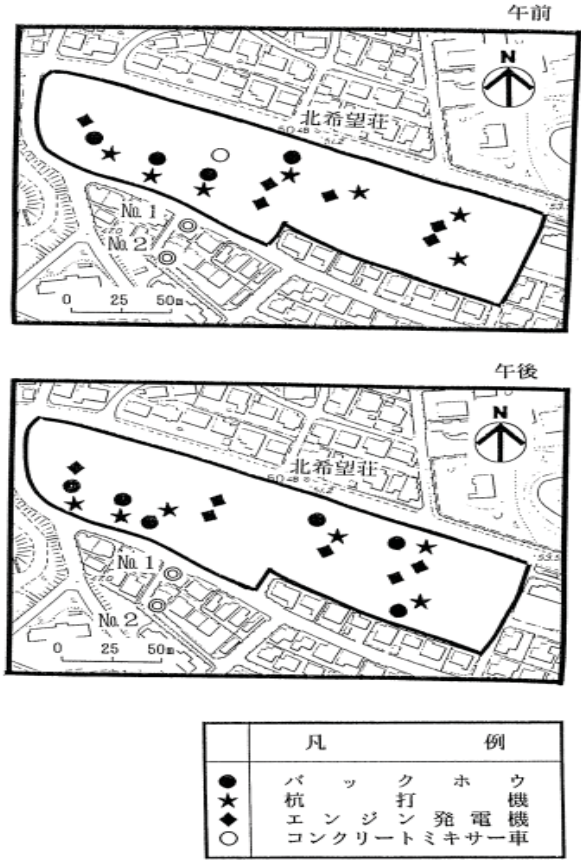
調査場所と工事機械配置図



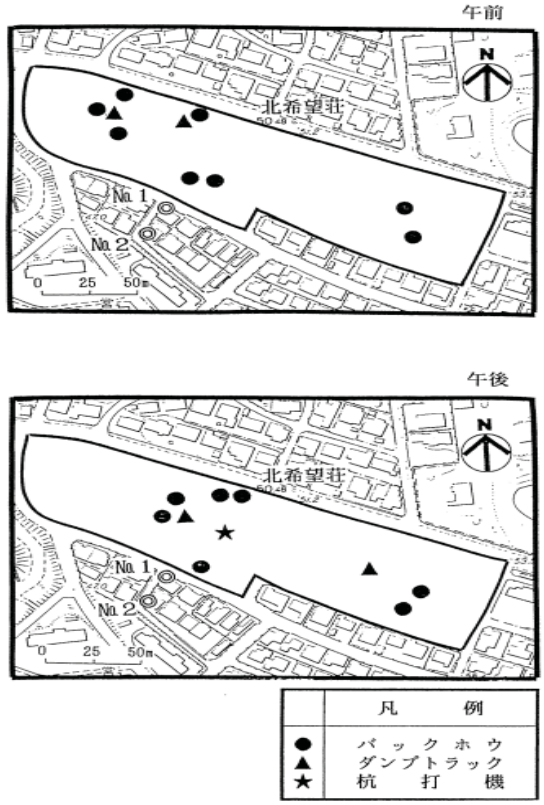
北希望荘（除却工事）



北希望荘（造成工事）



北希望荘（杭工事）



北希望荘（土工事（基礎工事））

(1)平成3年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音調査結果

工種区分及び調査日	時間帯	L_5 [dB(A)] 上段:騒音 下段:暗騒音	規制基準値 [dB(A)] (敷地境界上)
(1) 除却工事 (平成３年９月３日)	午前	52	85
		48	
	午後	52	
		45	
(2) 造成工事 (平成３年11月20日)	午前	70	85
		53	
	午後	60	
		53	
(3) 杭工事 (平成４年１月10日)	午前	67	85
		59	
	午後	67	
		53	
(4)土工事（基礎工事） (平成４年２月６日)	午前	66	85
		47	
	午後	65	
		48	

注）(1)No.１（敷地境界より７ｍ離れた）地点の値である。
(2)騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音調査結果

各工事における工事騒音（暗騒音を含む）の最大値は、除却工事で52dB(A)、造成工事で70dB(A)、杭工事で67dB(A)、土工事（基礎工事）で66dB(A)と、その値は全て規制基準値[85dB(A)]を十分に下回っていた。

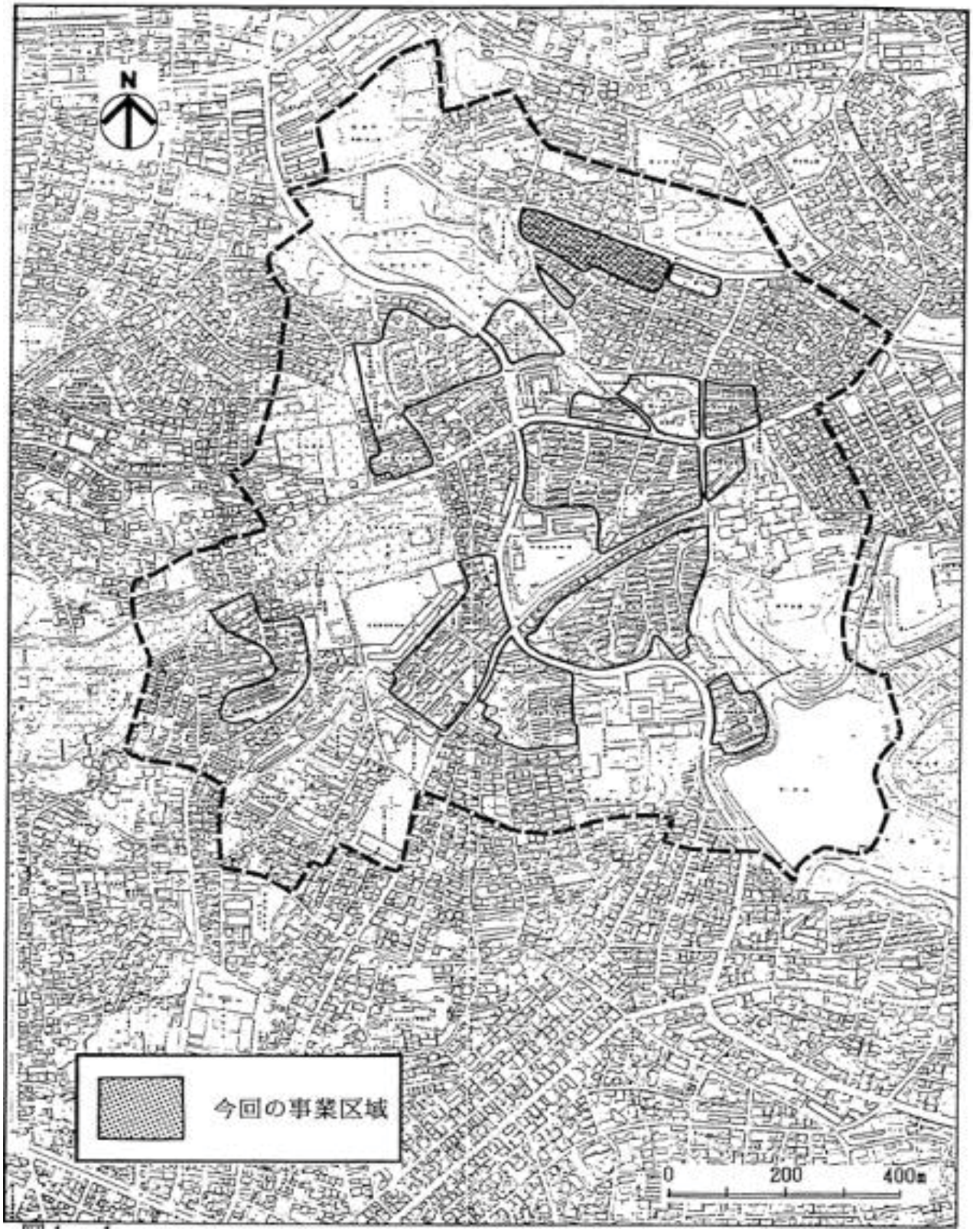
工事騒音調査結果一覧表（資料編）

工種区分及び工事期間	調査日	時間帯	使用工事機械種及び台数	調査結果[dB(A)]（上段：騒音　下段：暗騒音） No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	規制基準値[dB(A)]（敷地境界上）
(1) 除却工事 (平成３年８月～平成３年９月)	平成３年９月３日	午前	バックホウ ５台 ダンプトラック ５台	52	49	46	50	45	42	85
				48	45	42	46	41	38	
		午後	バックホウ ６台 ダンプトラック ５台	52	48	45	52	45	43	
				45	41	38	47	40	37	
(2) 造成工事 (平成３年９月～平成３年11月)	平成３年11月20日	午前	バックホウ ６台 ブルドーザ １台	70	65	61	68	60	57	85
				53	49	44	53	50	46	
		午後	バックホウ ５台	60	57	55	59	54	51	
				53	50	46	50	47	44	
(3) 杭工事 (平成３年12月～平成４年２月)	平成４年１月10日	午前	バックホウ ４台 杭打機 ７台 エンジン発電機 ６台 コンクリートミキサー車 １台	67	64	62	61	57	55	85
				59	57	56	57	54	52	
		午後	バックホウ ６台 杭打機 ６台 エンジン発電機 ６台	67	65	63	60	57	55	
				53	51	49	51	47	44	
(4) 土工事（基礎工事） (平成４年２月)	平成４年２月６日	午前	バックホウ ８台 ダンプトラック ２台	66	62	59	59	55	51	85
				47	44	42	42	40	38	
		午後	バックホウ ７台 杭打機 １台 ダンプトラック ２台	65	63	61	58	52	49	
				48	44	39	50	43	39	

注）① No.1は敷地境界から７ｍの地点であり、No.2は敷地境界から30ｍの地点である。
② L_5・L_{50}・L_{95}はそれぞれ90%レンジの上端値・中央値・下端値を示す。

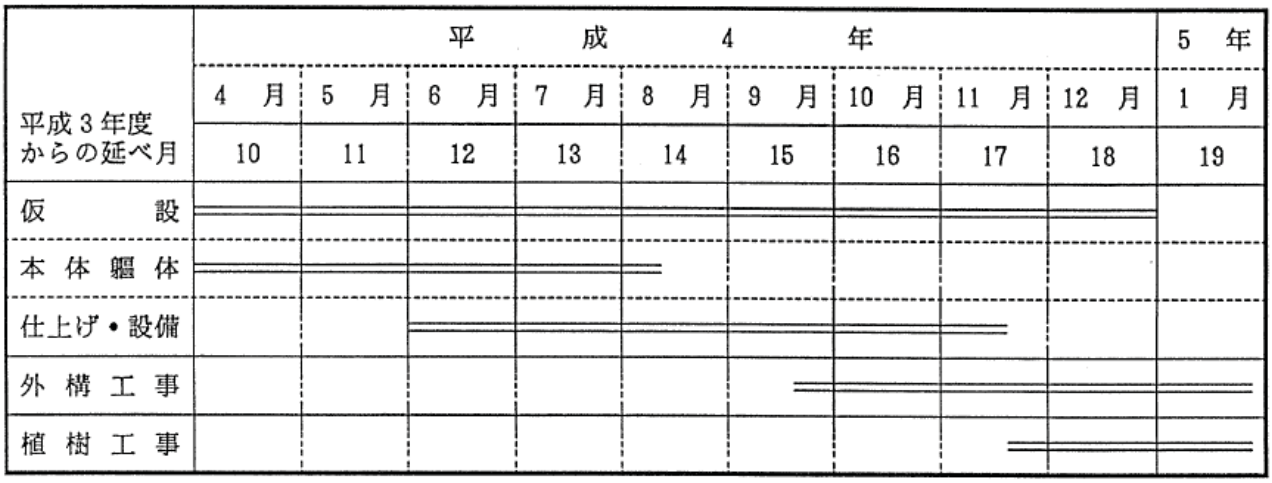
(2) 平成4年度　　騒音

事業実施場所



(2) 平成4年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

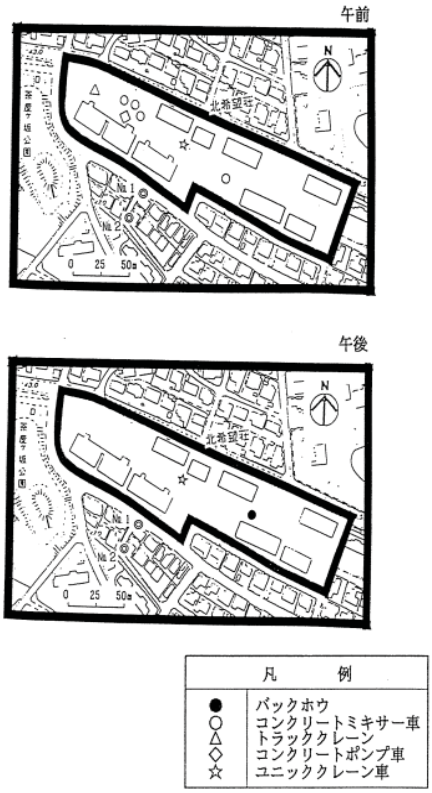
環境項目	調査期間	調査回数
水質汚濁	平成4年4月～平成4年11月	4 回
工事騒音	平成4年4月～平成4年11月	4 回
工事振動	平成4年4月～平成4年11月	4 回

騒音の調査時期

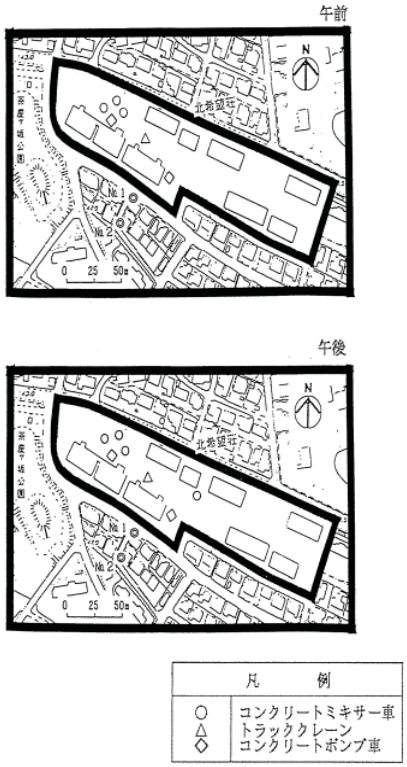
回数	工種	測定年月日
1	躯体工事	平成4年4月9日（木）
2	躯体工事	平成4年6月20日（土）
3	躯体工事	平成4年9月9日（水）
4	外構工事	平成4年11月10日（火）

(2) 平成4年度　　騒音

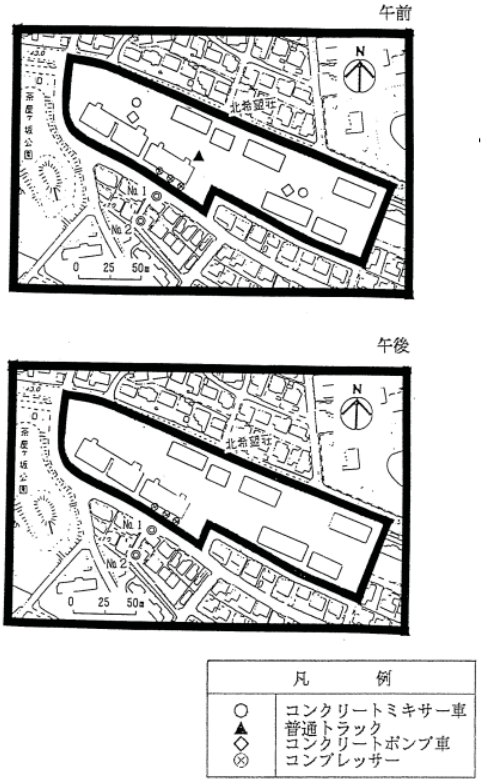
調査場所と工事機械配置図



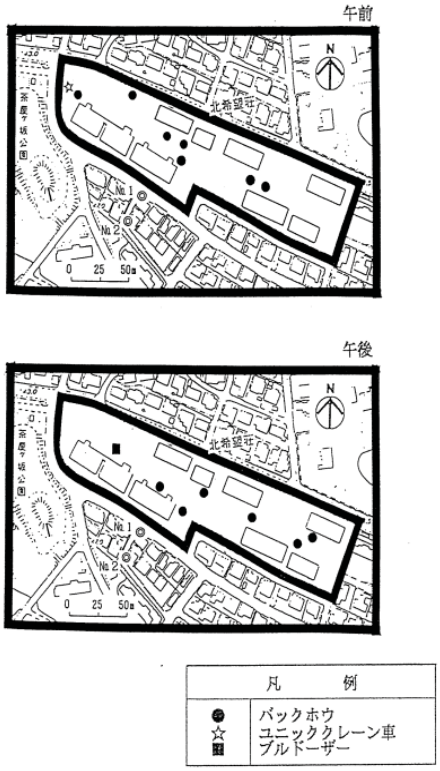
北希望荘（軀体工事：平成4年4月9日）



北希望荘（軀体工事：平成4年6月20日）



北希望荘（軀体工事：平成4年9月9日）



北希望荘（外構工事：平成4年11月10日）

(2) 平成4年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音調査結果

工種区分及び調査日	時間帯	L_5 [dB(A)] 上段：騒音 下段：暗騒音	規制基準値 [dB(A)] （敷地境界上）
(1) 軀体工事（平成4年4月9日）	午前	63	85
		51	
	午後	62	
		48	
(2) 軀体工事（平成4年6月20日）	午前	71	85
		50	
	午後	64	
		47	
(3) 軀体工事（平成4年9月9日）	午前	67	85
		49	
	午後	66	
		54	
(4) 外構工事（平成4年11月10日）	午前	62	85
		50	
	午後	58	
		50	

注1)№1（敷地境界より7m離れた）地点の値である。
2)騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

北希望荘建設に係る工種毎の騒音調査結果
（平成3年度～4年度）

工種区分	L_5 [dB(A)] 上段：騒音 下段：暗騒音
除却工事	52
	45 ～ 48
造成工事	60 ～ 70
	53
杭工事	67
	53 ～ 59
土工事（基礎工事）	65 ～ 66
	47 ～ 48
軀体工事	62 ～ 71
	47 ～ 54
外構工事	58 ～ 62
	50

注1)№1（敷地境界より7m離れた）地点の値である。
2)騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音調査結果

各種区分における工事騒音（暗騒音を含む）の最大値は、軀体工事で71dB(A)、外構工事で62dB(A)とその値は全て規制基準値[85dB(A)]を十分に下回っていた。

なお、北希望荘全体の建設工事（平成3年度～4年度）を通して、最も工事騒音の大きかった工種は軀体工事であり、その値は71dB(A)であった。

工事騒音調査結果一覧表（資料編）

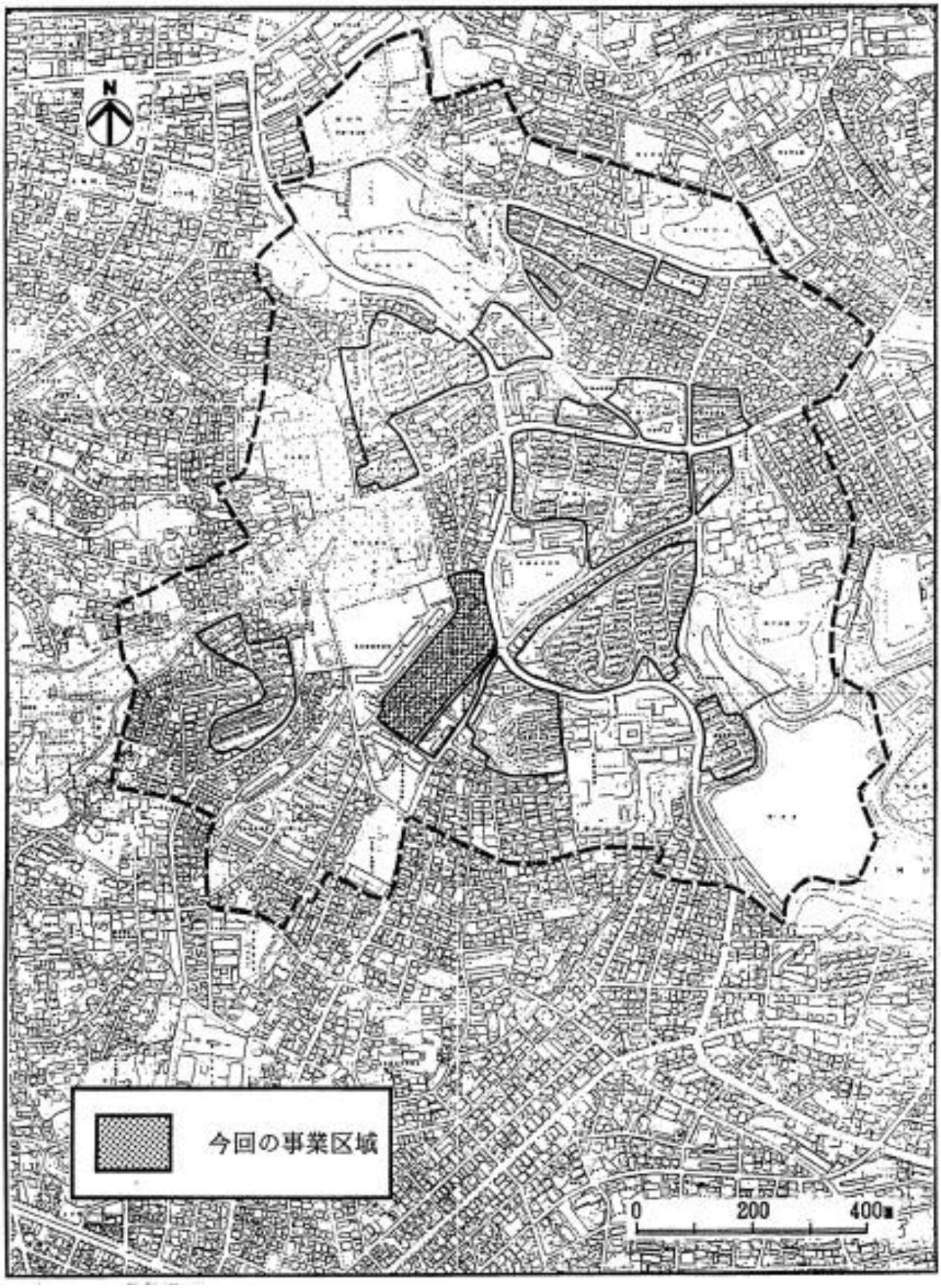
工種区分及び工事期間	調査日	時間帯	使用工事機械種及び台数	調査結果[dB(A)]（上段：騒音 下段：暗騒音） №1 L_5	№1 L_{50}	№1 L_{95}	№2 L_5	№2 L_{50}	№2 L_{95}	規制基準値 [dB(A)] （敷地境界上）
(1) 軀体工事（平成4年4月～平成4年8月）	平成4年4月9日	午前	コンクリートミキサー車 4台 トラッククレーン 1台 コンクリートポンプ車 1台 ユニッククレーン車 1台	63	58	56	56	50	48	85
				51	46	43	48	43	41	
		午後	バックホウ 1台 ユニッククレーン車 1台	62	53	48	55	48	44	
				48	43	40	49	42	40	
(2) 軀体工事（平成4年4月～平成4年8月）	平成4年6月20日	午前	コンクリートミキサー車 3台 コンクリートポンプ車 2台 トラッククレーン 1台	71	58	52	65	53	47	85
				50	46	43	46	41	39	
		午後	コンクリートミキサー車 4台 コンクリートポンプ車 2台 トラッククレーン 1台	64	58	53	64	51	47	
				47	44	42	46	42	40	
(3) 軀体工事（平成4年4月～平成4年8月）	平成4年9月9日	午前	コンクリートミキサー車 2台 コンクリートポンプ車 2台 普通トラック 1台 コンプレッサー 3台	67	64	63	58	55	54	85
				49	47	43	47	42	39	
		午後	コンプレッサー 3台	66	58	50	57	49	44	
				54	54	52	58	57	55	
(4) 外構工事（平成4年9月～平成5年1月）	平成4年11月10日	午前	バックホウ 7台 ユニッククレーン車 1台	62	58	52	54	49	44	85
				50	45	42	46	42	40	
		午後	バックホウ 6台 ブルドーザー 1台	58	53	51	49	46	44	
				50	46	44	48	45	42	

注1)№1は敷地境界から7mの地点であり、№2は敷地境界から30mの地点である。
2)L_5・L_{50}・L_{95}はそれぞれ90%レンジの上端値・中央値・下端値を示す。

千種台地区住宅整備事業4年度環境影響評価事後調査報告書（平成5年1月）

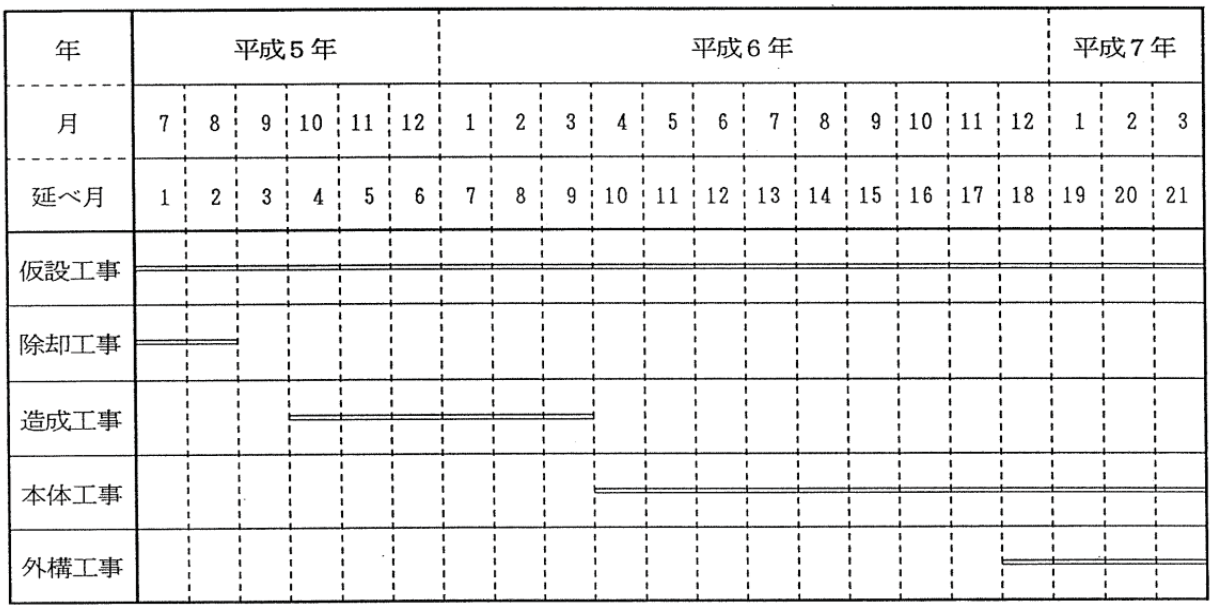
(3) 平成5年度　　騒音

事業実施場所



(3) 平成5年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

環境項目	調査期間	調査回数
水質汚濁	平成５年８・９・11月 平成６年１月	４　回
工事騒音	平成５年８月	１　回

騒音の調査時期：平成5年8月11日

(3) 平成5年度　　騒音

調査場所と工事機械配置図

午前

午後

凡　　例	
●	バックホウ
▲	ダンプトラック

楠荘（除却工事）

(3) 平成5年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音調査結果

工種区分及び調査日	時間帯	L_5 [dB(A)] 上段：騒音 下段：暗騒音 No. 1	No. 2	規制基準値 [dB(A)] (敷地境界上)
除却工事 (平成5年8月11日)	午前	74	72	85
		75	73	
	午後	77	75	
		76	74	

注）1）No.1、No.2共に敷地境界から5mの地点である。
2）騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音の調査時期および結果一覧表（資料編）

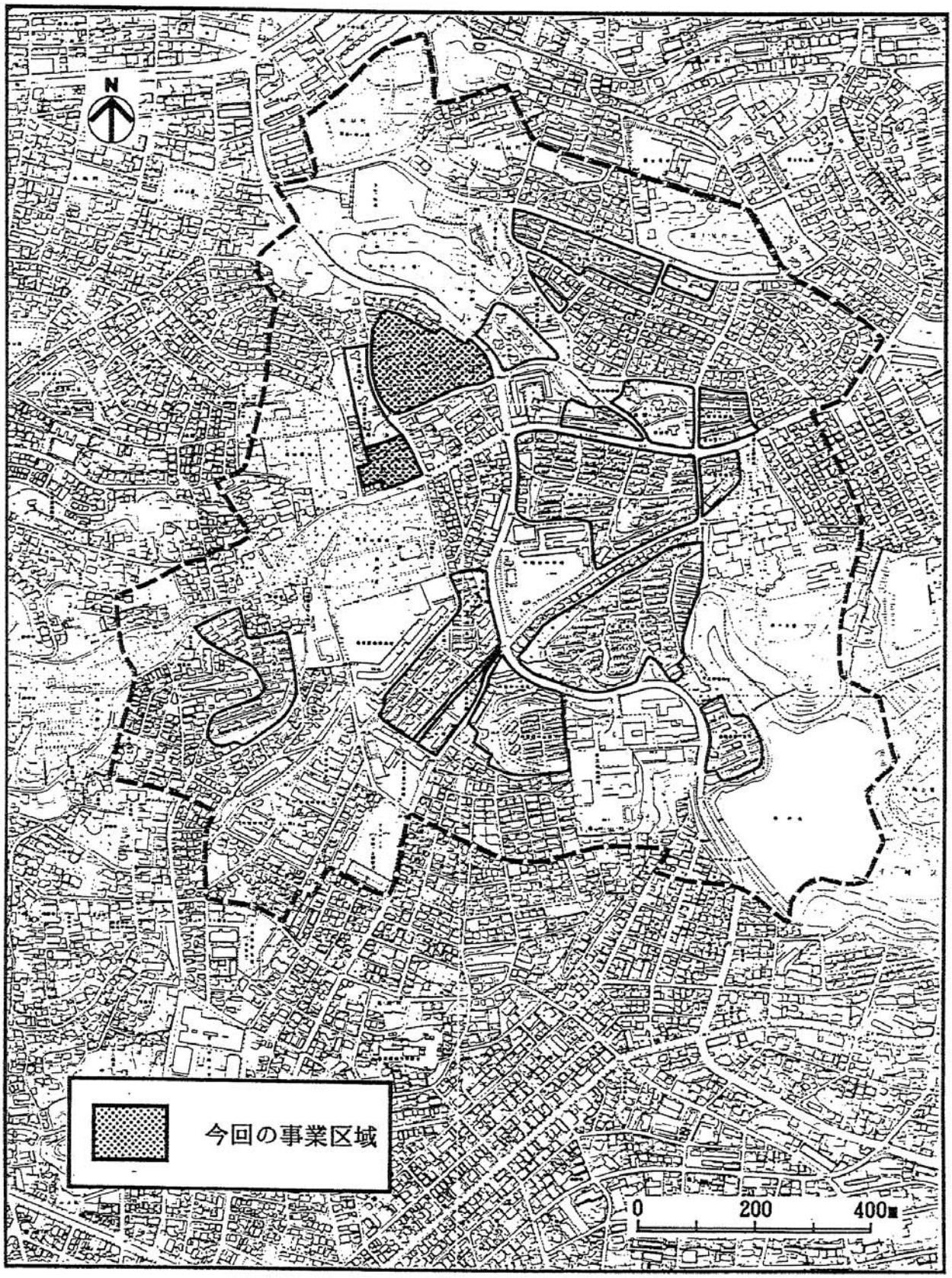
調査日	時間帯		調査結果 [dB(A)] No. 1 L_5	No. 1 L_{50}	No. 1 L_{95}	No. 2 L_5	No. 2 L_{50}	No. 2 L_{95}	規制基準値 [dB(A)] (敷地境界上)
平成5年8月11日	午前	作業中 AM10:10～AM11:00	74	71	68	72	69	67	85
		暗騒音 PM12:10～PM12:20	75	72	69	73	72	70	
	午後	作業中 PM13:45～PM14:20	77	75	73	75	74	70	
		暗騒音 PM17:50～PM18:00	76	74	70	74	72	71	

注）1）No.1、No.2共に敷地境界から5mの地点である。
2）L_5・L_{50}・L_{95}はそれぞれ90%レンジの上端値・中央値・下端値を示す。

工事騒音調査結果
除却工事における工事騒音（暗騒音を含む）の最大値は77dB(A)で、規制基準値[85dB(A)]を下回っていた。

(4) 平成7年度　　騒音

事業実施場所



(4) 平成7年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）

	平成７年									平成８年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
（延べ月）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
仮　　設												
除　　却												
造　　成												

調査した環境項目及び調査回数

環境項目	調査回数	調査期間
水質汚濁	４回	平成７年７月 ～平成８年１月
工事騒音	２回	平成７年１０月 ～平成８年１月
工事振動	１回	平成７年１０月

騒音の調査時期

工　　種	測定年月日
除却工事	平成７年１０月２４日
造成工事	平成８年　１月２４日

(4) 平成7年度　　騒音

調査場所及び工事機械配置図

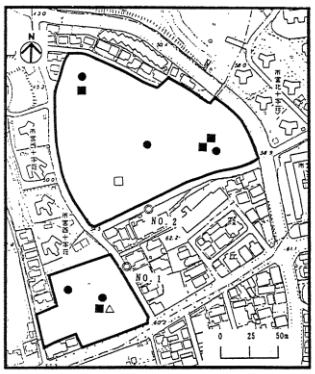
午前
(10:49～10:59)

午後
(2:42～2:52)

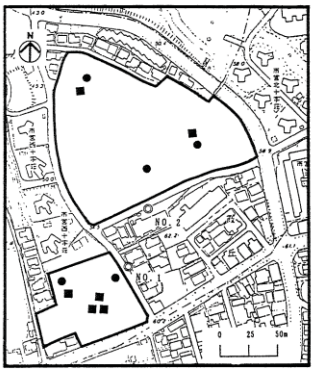
注）仮囲いの高さは、5.4m(シート養生)である。

凡　　例	
●	バックホウ
▲	コンクリート破壊機
■	ダンプトラック
◎	調査地点

千有荘・北十字[西]荘(除却工事)



午前
(11:05～11:15)



午後
(3:42～3:52)

注）仮囲いの高さは、1.8m(波板トタン)である。

凡　　例	
●	バックホウ
■	ダンプトラック
△	コンクリートミキサー車
□	ブルドーザ
◎	調査地点

千有荘・北十字[西]荘(造成工事)

(4)平成7年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音調査結果

工種区分	調査日	時間帯	Ｌ５［dB(A)］ 上段：騒　音 下段：暗騒音 Ｎｏ．１	Ｎｏ．２	規制基準 ［dB(A)］ （敷地境界上）
除却工事	平成7年10月24日	午前	６５	６８	８５
			６１	５１	
		午後	６６	６５	
			６３	４９	
造成工事	平成8年 1月24日	午前	６８	６２	
			５２	４９	
		午後	７０	６１	
			５７	５６	

注）　1)除却工事については、No.1地点は敷地境界から5m離れた地点であり、No.2地点は敷地境界から7m離れた地点である。また造成工事については、No.1地点及びNo.2地点は敷地境界から7m離れた地点である。
2)騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音調査結果

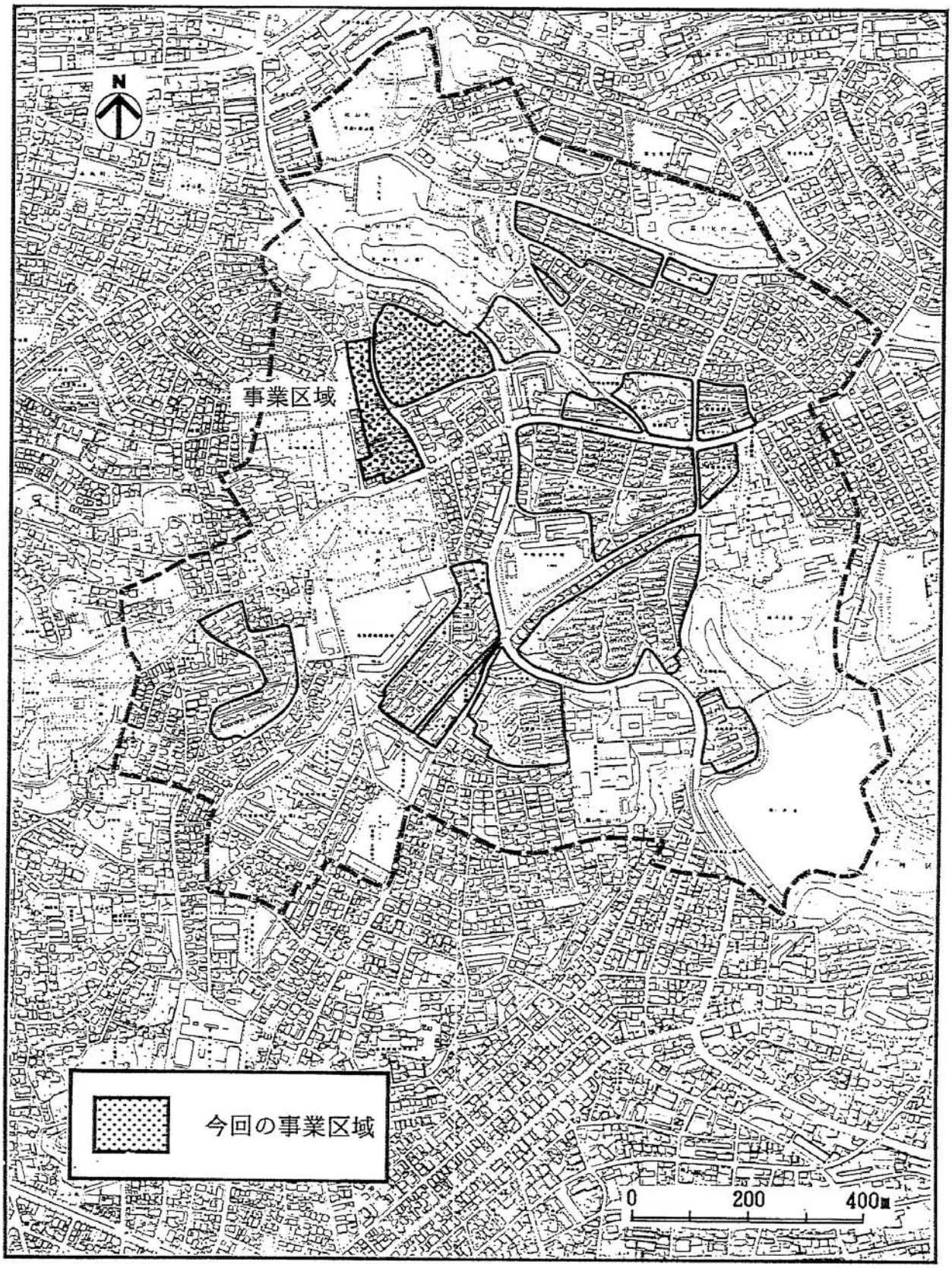
各工事における工事騒音（暗騒音を含む）は、除却工事で最大68dB(A)、造成工事で最大70dB(A)であった。

工事騒音調査結果時期及び結果一覧表(資料編)

工種区分及び工事期間	調査日	時間帯		使用工事機械種及び台数	結果[dB(A)]（上段：騒音　下段：暗騒音）Ｎｏ．１ Ｌ５	Ｎｏ．１ Ｌ50	Ｎｏ．１ Ｌ95	Ｎｏ．２ Ｌ５	Ｎｏ．２ Ｌ50	Ｎｏ．２ Ｌ95	規制基準［dB(A)］（敷地境界上）
除却工事〔平成7年10月～平成7年11月〕	平成7年10月24日	午前	作業中 10:49～10:59	ﾊﾞｯｸﾎｳ 17台 ｺﾝｸﾘｰﾄ破壊機 5台 ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 9台	６５	６１	５７	６８	６２	６０	８５
			暗騒音 10:08～10:18		６１	５３	４９	５１	４５	４２	
		午後	作業中 2:42～2:52	ﾊﾞｯｸﾎｳ 14台 ｺﾝｸﾘｰﾄ破壊機 7台 ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 7台	６６	６０	５６	６５	６１	５９	
			暗騒音 3:01～3:11		６３	５３	４８	４９	４４	４２	
造成工事〔平成7年12月～平成8年3月〕	平成8年1月24日	午前	作業中 11:05～11:15	ﾊﾞｯｸﾎｳ 5台 ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 4台 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車 1台 ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ 1台	６８	６３	６０	６２	５９	５６	
			暗騒音 10:05～10:15		５２	４８	４４	４９	４５	４２	
		午後	作業中 3:42～3:52	ﾊﾞｯｸﾎｳ 5台 ﾀﾞﾝﾌﾟﾄﾗｯｸ 6台	７０	６７	６５	６１	５９	５４	
			暗騒音 3:02～3:12		５７	５４	５２	５６	５３	５１	

(5) 平成9年度2次　　騒音

事業実施場所



(5)平成9年度2次　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）

	平成９年									平成１０年		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
（延べ月）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
仮　　設												
本体躯体												
外　　構												
植　　栽												
道　　路												
除　　却												
造　　成												

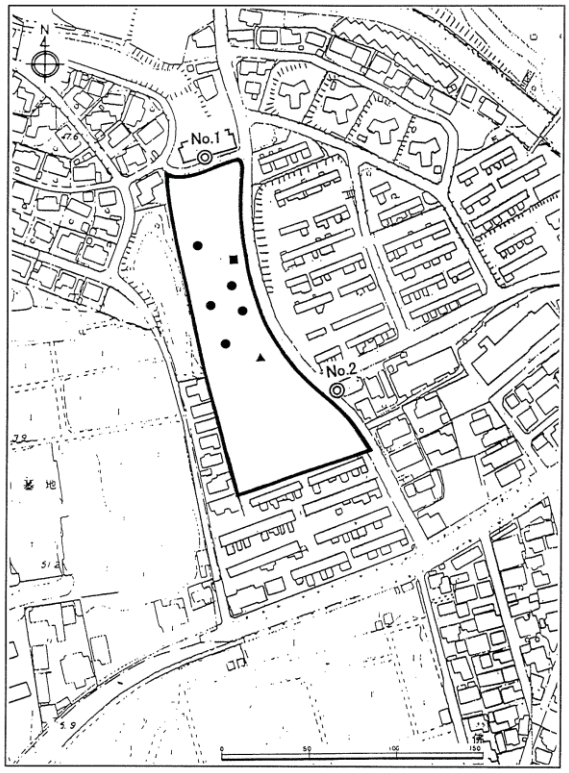
調査した環境項目及び調査回数

環境項目	調査回数	調査期間
工事騒音	１回	平成１０年３月
工事振動	１回	平成１０年３月

騒音の調査時期：平成10年3月26日

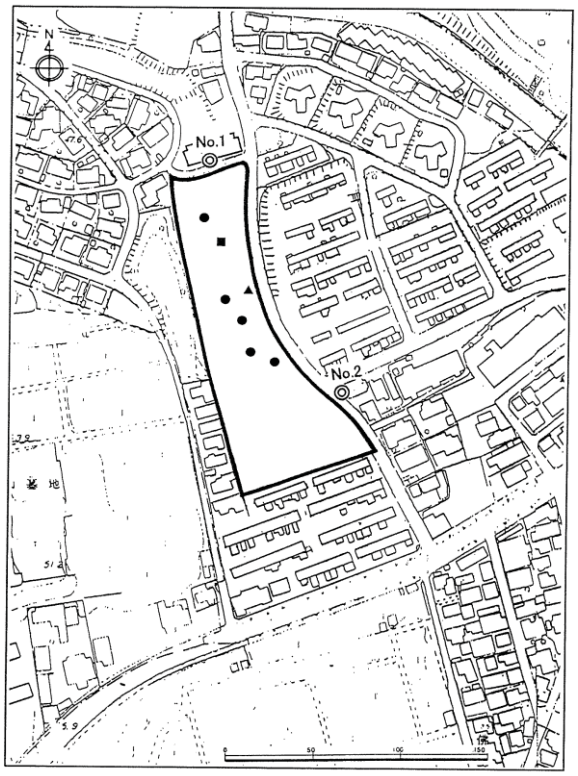
(5) 平成9年度2次　　騒音

調査場所と工事機械配置図



凡　　例	
●	バックホウ
▲	コンクリートミキサー車
■	ブルドーザ
◎	調査地点

霞ヶ丘荘（造成工事　午前）



凡　　例	
●	バックホウ
▲	コンクリートミキサー車
■	ブルドーザ
◎	調査地点

霞ヶ丘荘（造成工事　午後）

(5)平成9年度2次　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音調査結果

工種区分	調査日	時間帯	L_5［dB(A)］ 上段：騒　音 下段：暗騒音		規制基準 ［dB(A)］ （敷地境界上）
			No．1	No．2	
造成工事	平成10年3月26日	午前	68	62	85
			47	49	
		午後	70	63	
			53	54	

注）　1)No.1地点は敷地境界から3m離れた地点であり、No.2地点は敷地境界から8m離れた地点である。
2)騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

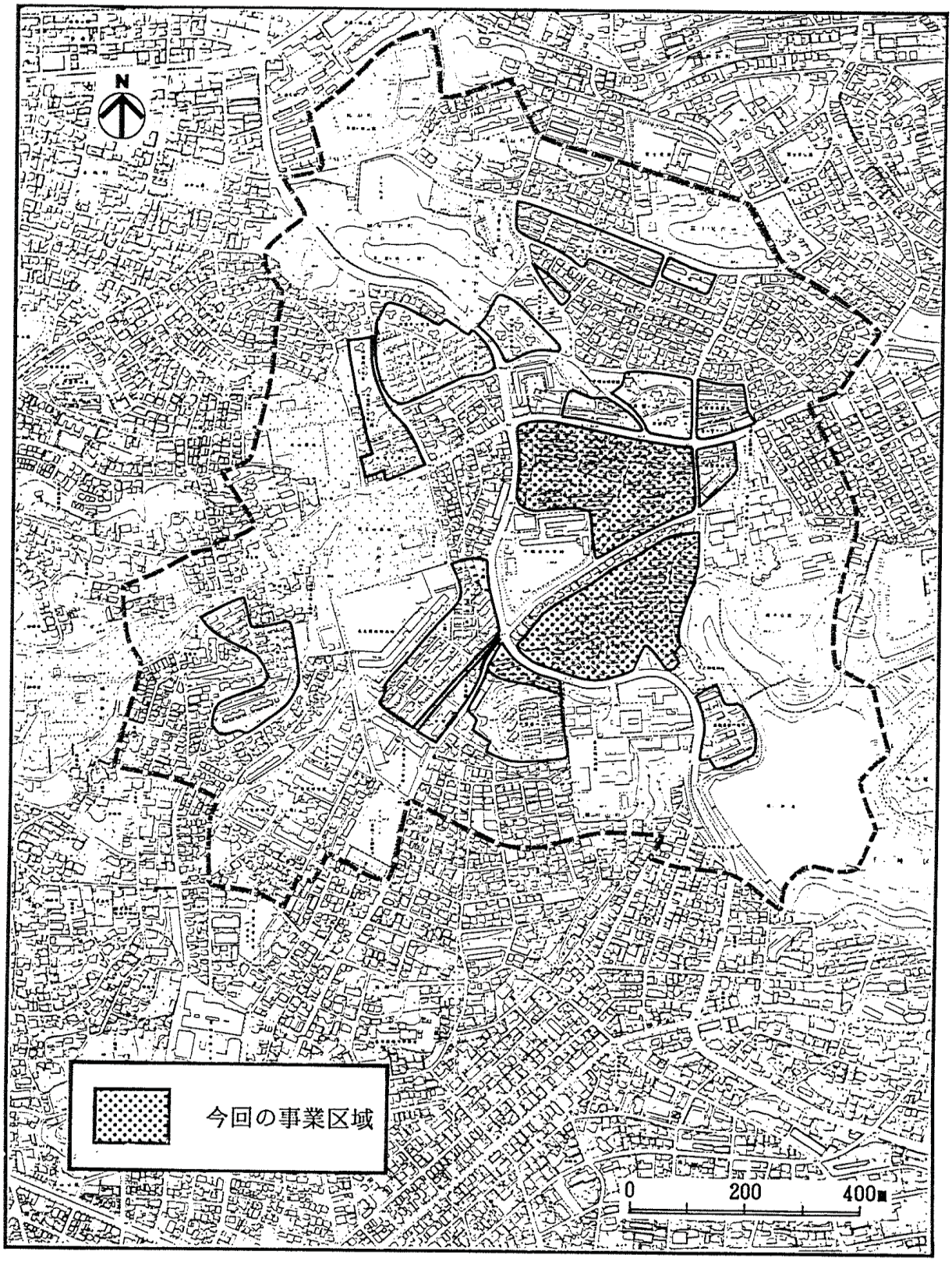
工事騒音調査結果
造成工事における工事騒音（暗騒音を含む）は、最大70dB(A)であった。

工事騒音の調査時期及び結果一覧表(資料編)

工種区分及び工事期間	調査日	時間帯		使用工事機械種及び台数	結果[dB(A)]（上段：騒音　下段：暗騒音）						規制基準 [dB(A)] (敷地境界上)
					No．1			No．2			
					L_5	L_{50}	L_{95}	L_5	L_{50}	L_{95}	
造成工事 (平成10年2月～平成10年3月)	平成10年3月26日	午前	作業中 10:40～10:50	ﾊﾞｯｸﾎｳ 5台 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車 1台 ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ 1台	68	63	58	62	58	56	85
			暗騒音 10:10～10:20		47	41	37	49	45	42	
		午後	作業中 14:30～14:40	ﾊﾞｯｸﾎｳ 5台 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車 1台 ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ 1台	70	64	59	63	59	55	
			暗騒音 15:08～15:18		53	47	45	54	48	46	

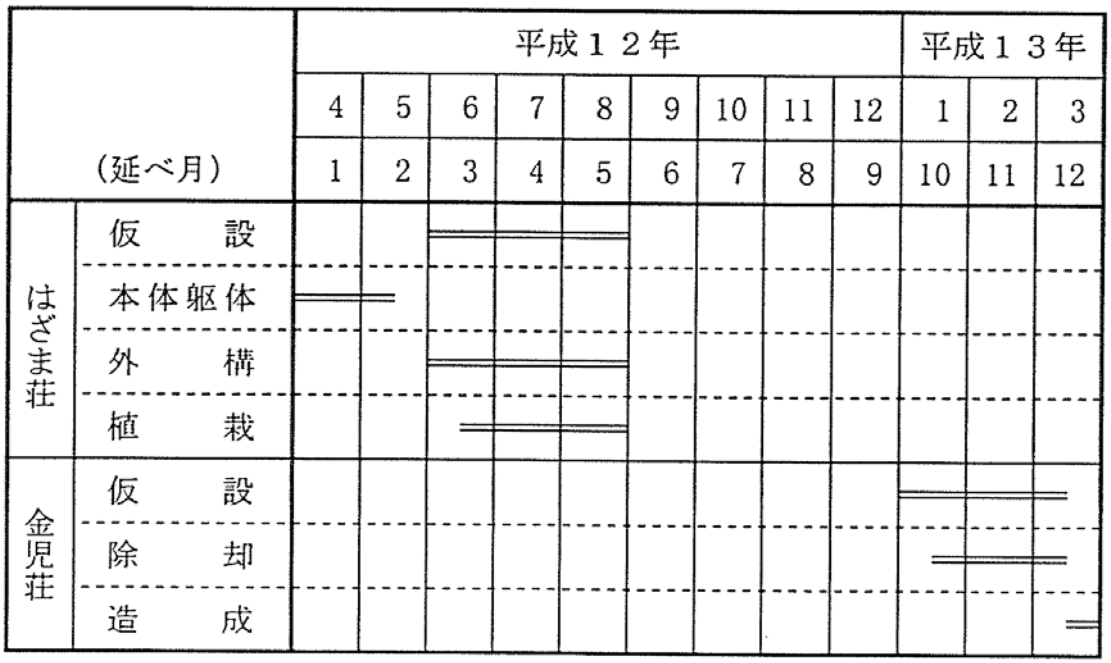
(6) 平成12年度　　騒音

事業実施場所



(6) 平成12年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

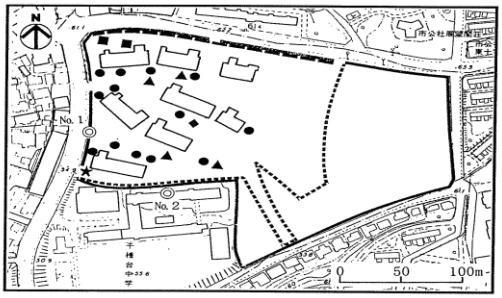
環境項目	調査回数	調査期間
水質汚濁	４回	平成１２年６月 ～平成１３年１月
工事騒音 ・ 工事振動	２回	平成１２年６月及び 平成１３年２月

騒音の調査時期

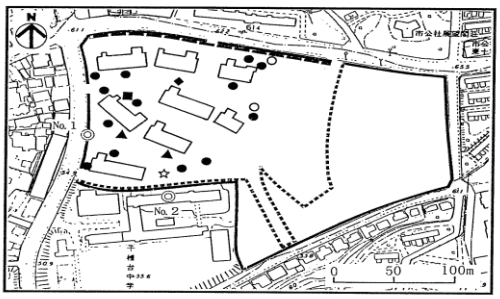
事業区域	工　種	測 定 年 月 日
はざま荘	外構工事	平成１２年６月２２日
金 児 荘	除却工事	平成１３年２月１５日

(6) 平成12年度　　騒音

工事機械配置図



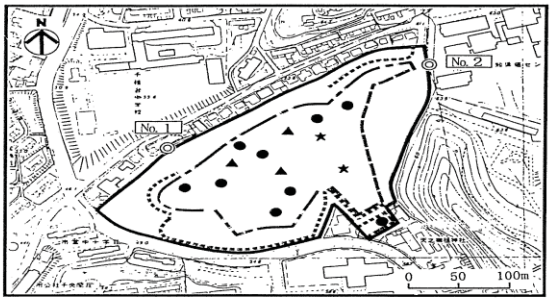
午　前
(11:00～11:10)



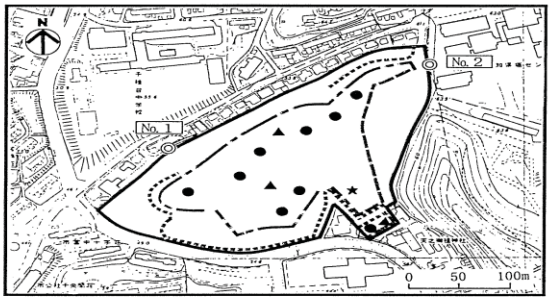
午　後
(14:00～14:10)

凡　例	
◎	調査地点
●	バックホウ
▲	ダンプトラック
■	トラッククレーン
◆	ブルドーザ
★	ラフタークレーン
☆	ホイールローダ
○	コンクリートミキサー
------	仮囲い H=1.8m（ネットフェンス）
— — —	仮囲い H=3.0m（万能板鉄塀）

はざま荘（外構工事）



午　前
(11:00～11:10)



午　後
(14:00～14:10)

凡　例	
◎	調査地点
●	コンクリート破壊機
▲	バックホウ
★	ダンプトラック
— — —	仮囲い　（ガードフェンス）
------	仮囲い H=3.6
-·-·-	仮囲い H=5.4

金児荘（除却工事）

(6)平成12年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音の調査結果

事業区域 工　種	測定年月日	時間帯	L_5 [dB] 上段：騒　音 下段：暗騒音 No.1	No.2	規制基準 [dB] （敷地境界上）
はざま荘 外構工事	平成12年６月22日	午　前	７３	６９	８５
			７０	５４	
		午　後	７２	６６	
			６８	５４	
金児荘 除却工事	平成13年２月15日	午　前	５６	５７	
			５０	５４	
		午　後	５３	５８	
			５０	５４	

注）1.はざま荘外構工事のNo.１地点は敷地境界上、No.２地点は敷地境界から1.5mの地点、
　　金児荘の除却工事についてはNo.１、No.２地点ともに敷地境界上の地点である。
　　2.騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音調査結果

各工事における建設作業騒音（暗騒音を含む）は、外構工事で最大73dB、除却工事で最大58dBであった。

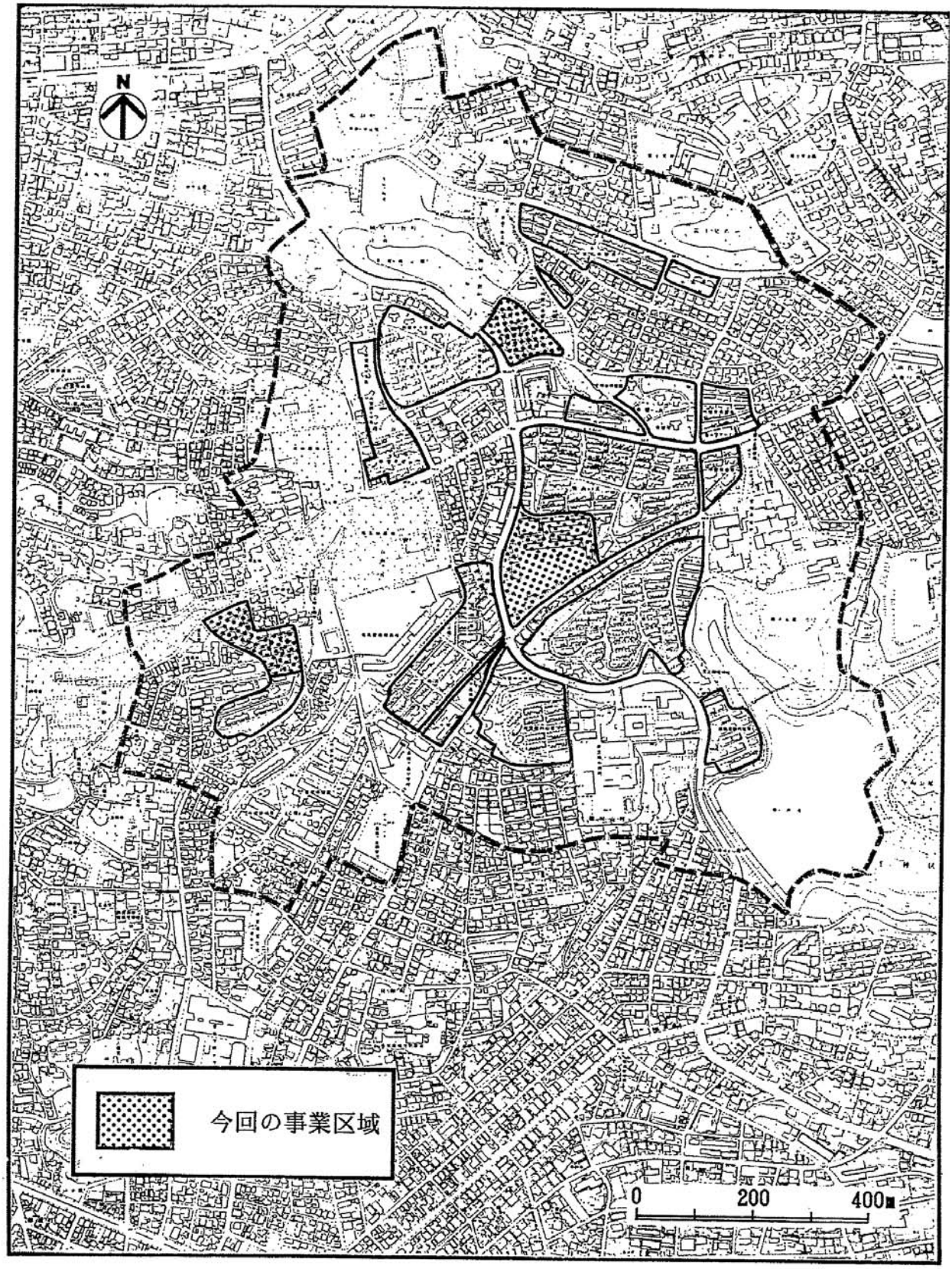
工事騒音の調査時期及び結果一覧表(資料編)

工種及び工事期間	測定年月日	時間帯		使用工事機械種及び台数	調査結果(dB)（上段：騒音　下段：暗騒音）No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	規制基準(dB)（敷地境界上）
はざま荘 外構工事 (平成12年6月 ～平成12年8月)	平成12年6月22日	午前	作業時 11：00～11：10	バックホウ 13台 ダンプトラック 4台 トラッククレーン 2台 ブルドーザ 1台 ラフタークレーン 1台	73	68	65	69	64	62	85
			休憩時 10：05～10：15		70	61	51	54	48	44	
		午後	作業時 14：00～14：10	バックホウ 13台 ダンプトラック 2台 トラッククレーン 1台 ブルドーザ 1台 ホイールローダ 2台 コンクリートミキサー 1台	72	68	65	66	60	52	
			休憩時 15：00～15：10		68	61	51	54	50	48	
金児荘 除却工事 (平成13年1月 ～平成13年3月)	平成13年2月15日	午前	作業時 11：00～11：10	コンクリート破壊機 9台 バックホウ 3台 ダンプトラック 2台	56	53	50	57	54	50	85
			休憩時 10：00～10：10		50	47	45	54	52	49	
		午後	作業時 14：00～14：10	コンクリート破壊機 9台 バックホウ 3台 ダンプトラック 1台	53	50	49	58	56	53	
			休憩時 15：00～15：10		50	48	46	54	52	49	

注）1.はざま荘外構工事のNo.１地点は敷地境界上、No.２地点は敷地境界から1.5mの地点、金児荘の除却工事についてはNo.１、No.２地点ともに敷地境界上の地点である。
　　2.L_5、L_{50}、L_{95}はそれぞれ90%レンジの上端値、中央値、下端値を示す。

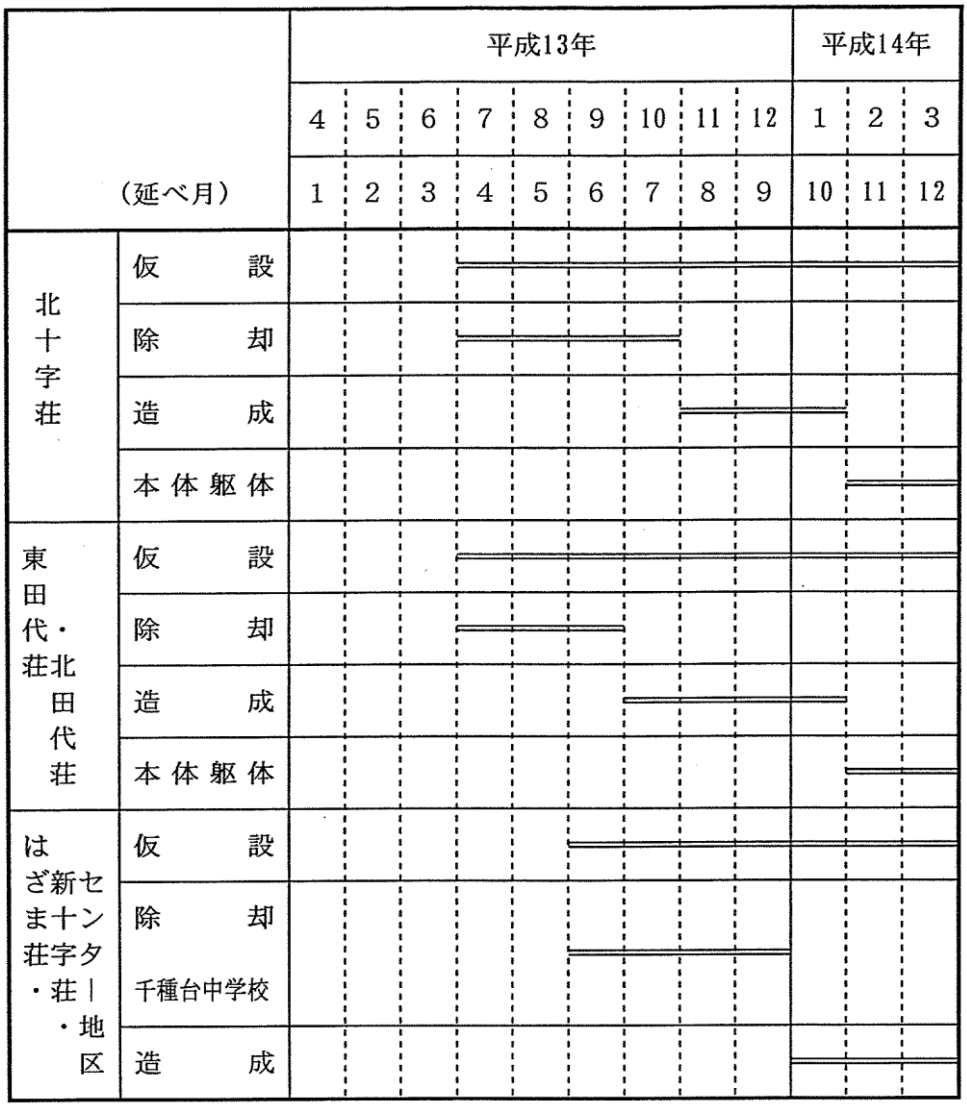
(7) 平成13年度　　騒音

事業実施場所



(7) 平成13年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

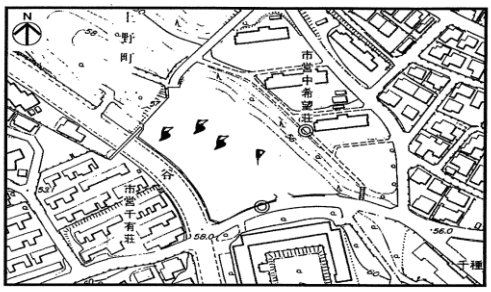
環境項目	調査回数	調査期間
水　質	４回	平成１３年９月 ～平成１４年２月
工事騒音 ・ 工事振動	３回	平成１３年８月、10月 及び 平成１４年１月

騒音の調査時期

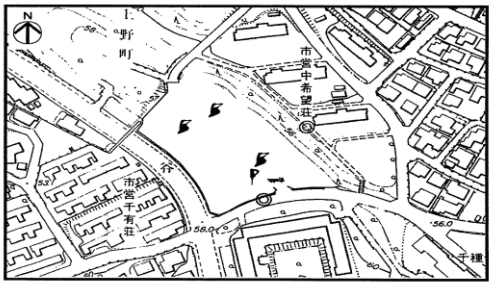
区　分	工　種	測定年月日
北十字荘	造成工事	平成１４年　１月１８日
東田代荘・北田代荘	除却工事	平成１３年　８月２８日
はざま荘・新十字荘 及びセンター地区	中学校 除却工事	平成１３年１０月　２日

(7) 平成13年度　　騒音

工事機械配置図



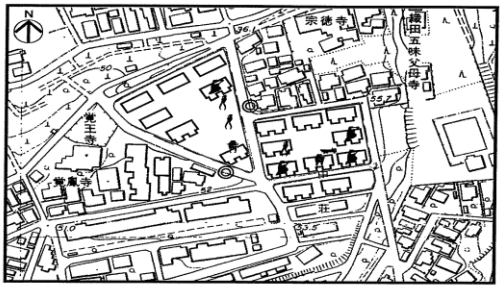
午　前
(9: 50～10:00)



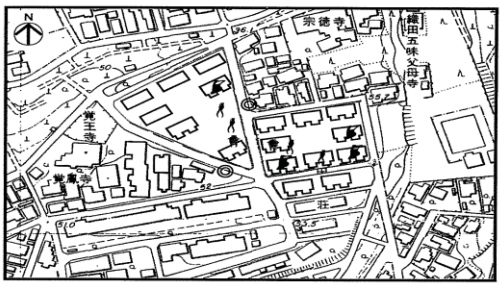
午　後
(13:40～13: 55)

凡　　例	
	バックホウ
	ダンプトラック
	コンクリート破壊機
――	仮囲い（ガードフェンス H=1.8m）
◎	調査地点

北十字荘（造成工事）



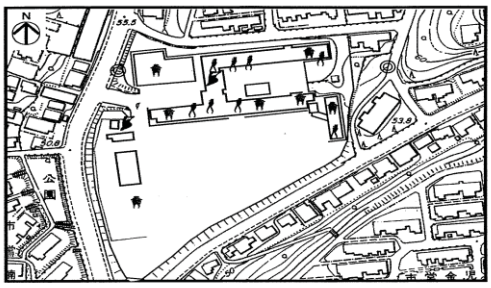
午　前
(10:45～10:55)



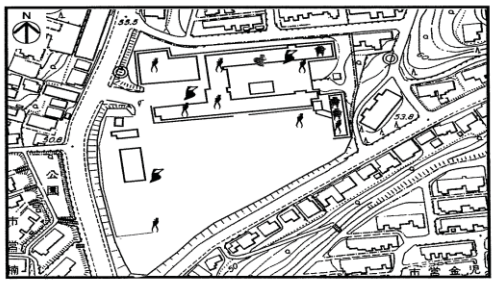
午　後
(14:20～14:30)

凡　　例	
	バックホウ
	フォークグラブ
	コンクリートカッター
	ダンプトラック
――	仮囲い（防音シート H=3.6m）
◎	調査地点

東田代荘・北田代荘（除却工事）



午　前
(10:30～10:40)



午　後
(14:30～14: 40)

凡　　例	
	バックホウ
	フォークグラブ
	コンクリートカッター
	リフティングマグネット
――	仮囲い（防音パネル H=建物上まで）
――	仮囲い（防音シート H=3.6m）
――	仮囲い（ガードフェンス H=1. 8m）
◎	調査地点

はざま荘・新十字荘及びセンター地区（中学校除却工事）

(7) 平成13年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音の調査結果

工種区分		時間帯	L_5［dB(A)］上段：騒　音 下段：暗騒音 No.1	No.2	規制基準［dB(A)］（敷地境界上）
北十字荘造成工事	平成14年1月18日	午　前	65	76	85
			47	63	
		午　後	68	79	
			51	64	
東田代荘北田代荘除却工事	平成13年8月28日	午　前	73	71	
			55	48	
		午　後	75	73	
			61	49	
はざま荘新十字荘及びセンター地区中学校除却工事	平成13年10月2日	午　前	72	66	
			72	59	
		午　後	71	67	
			71	56	

注）1. 北十字荘造成工事のNo.1、No.2地点は敷地境界上、東田代荘・北田代荘除却工事のNo.1、No.2地点は、敷地境界から6mの地点、はざま荘・新十字荘及びセンター地区の中学校除却工事のNo.1、No.2地点は敷地境界上の地点である。
2. 工事騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音調査結果

各工事における工事騒音（暗騒音を含むL_5）は、造成工事で最大79dB(A)、除却工事で最大75dB(A)であった。

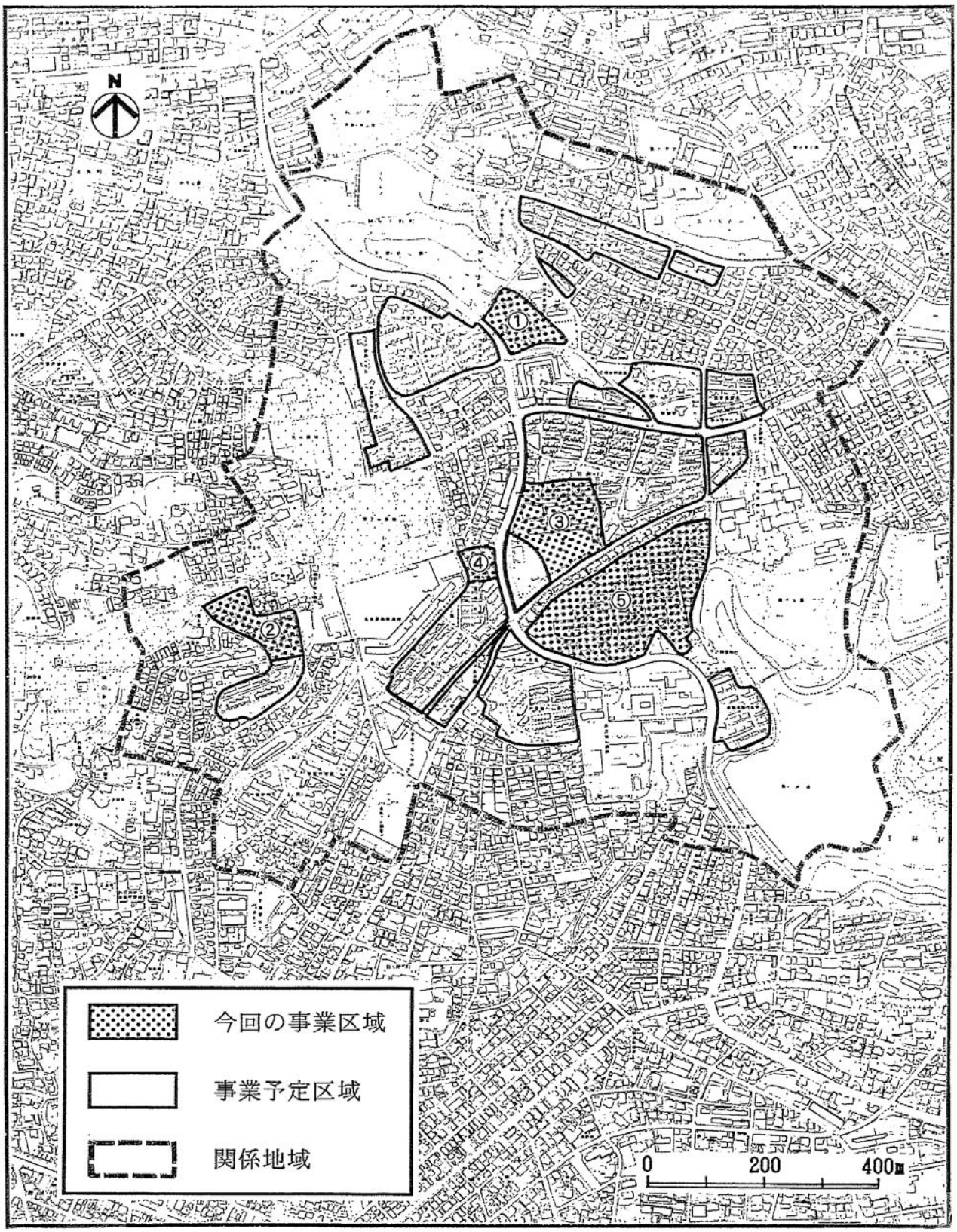
工事騒音調査時期及び結果一覧表(資料編)

工種区分及び工事期間	調査日	時間帯			使用工事機械種及び台数	結果[dB(A)]（上段：騒音　下段：暗騒音）No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	規制基準[dB(A)]（敷地境界上）
北十字荘造成工事 平成13年11月～平成14年1月	平成14年1月18日	午前	作業中 9:50～10:00		バックホウ 2 フォークグラブ 2 コンクリート破砕機 2	65	51	47	76	68	62	85
			暗騒音 10:18～10:20			47	43	39	63	54	48	
		午後	作業中 13:40～13:55		バックホウ 3 フォークグラブ 2 コンクリート破砕機 1	68	52	48	79	65	60	
			暗騒音 14:05～14:19			51	46	43	64	56	51	
東田代荘・北田代荘除却工事 平成13年7月～平成13年9月	平成13年8月28日	午前	作業中 10:45～10:55		バックホウ 4 フォークグラブ 4 コンクリートカッター 1 ダンプカー 1	73	71	69	71	67	65	85
			暗騒音 10:00～10:12			55	53	52	48	46	45	
		午後	作業中 14:20～14:30		バックホウ 3 フォークグラブ 4 コンクリートカッター 2	75	70	66	73	69	65	
			暗騒音 15:00～15:10			61	55	53	49	48	46	

工種区分及び工事期間	調査日	時間帯			使用工事機械種及び台数	結果[dB(A)]（上段：騒音　下段：暗騒音）No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	規制基準[dB(A)]（敷地境界上）
はざま荘・新十字荘及びセンター地区 中学校除却工事 平成13年10月～平成13年12月	平成13年10月2日	午前	作業中 10:15～10:25		バックホウ 2 フォークグラブ 7 コンクリートカッター 7	72	67	62	66	62	59	85
			暗騒音 10:00～10:10			72	64	55	59	53	49	
		午後	作業中 14:30～14:40		バックホウ 3 フォークグラブ 8 コンクリートカッター 4 リフティングマグネット 1	71	65	60	67	62	60	
			暗騒音 15:00～15:10			71	61	53	56	52	49	

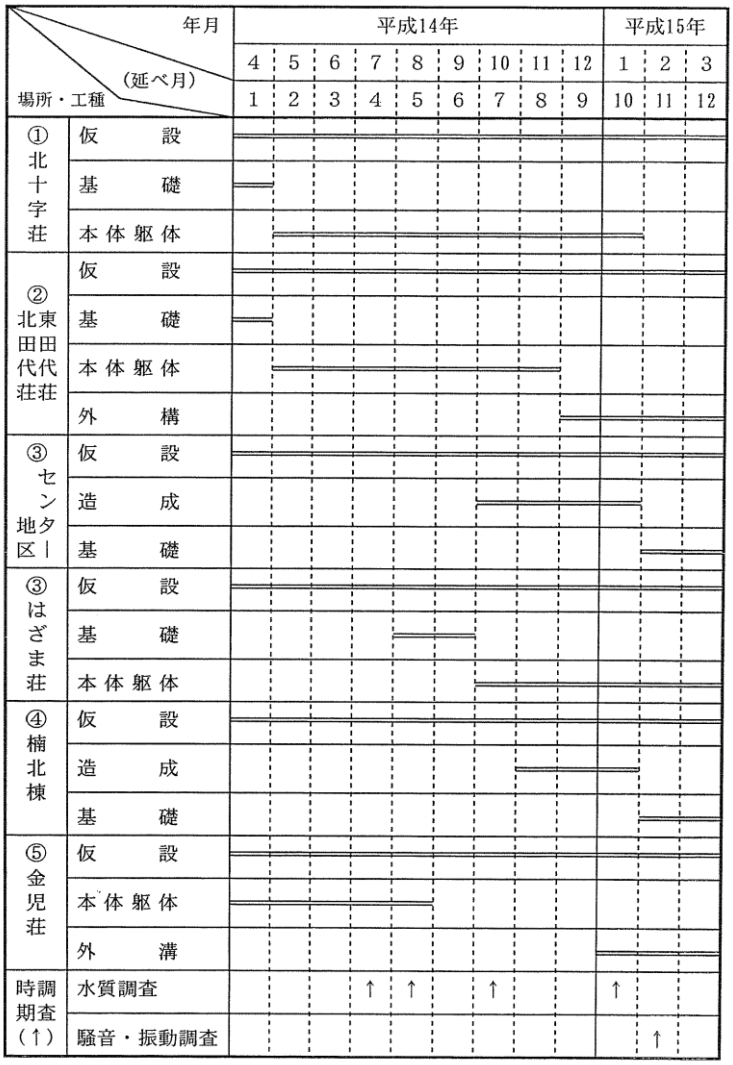
(8) 平成14年度　　騒音

事業実施場所



(8) 平成14年度　　騒音

スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

環境項目	調査回数	調査期間
水質汚濁	４回	平成１４年７月 ～平成１５年１月
工事騒音・工事振動	１回	平成１５年２月

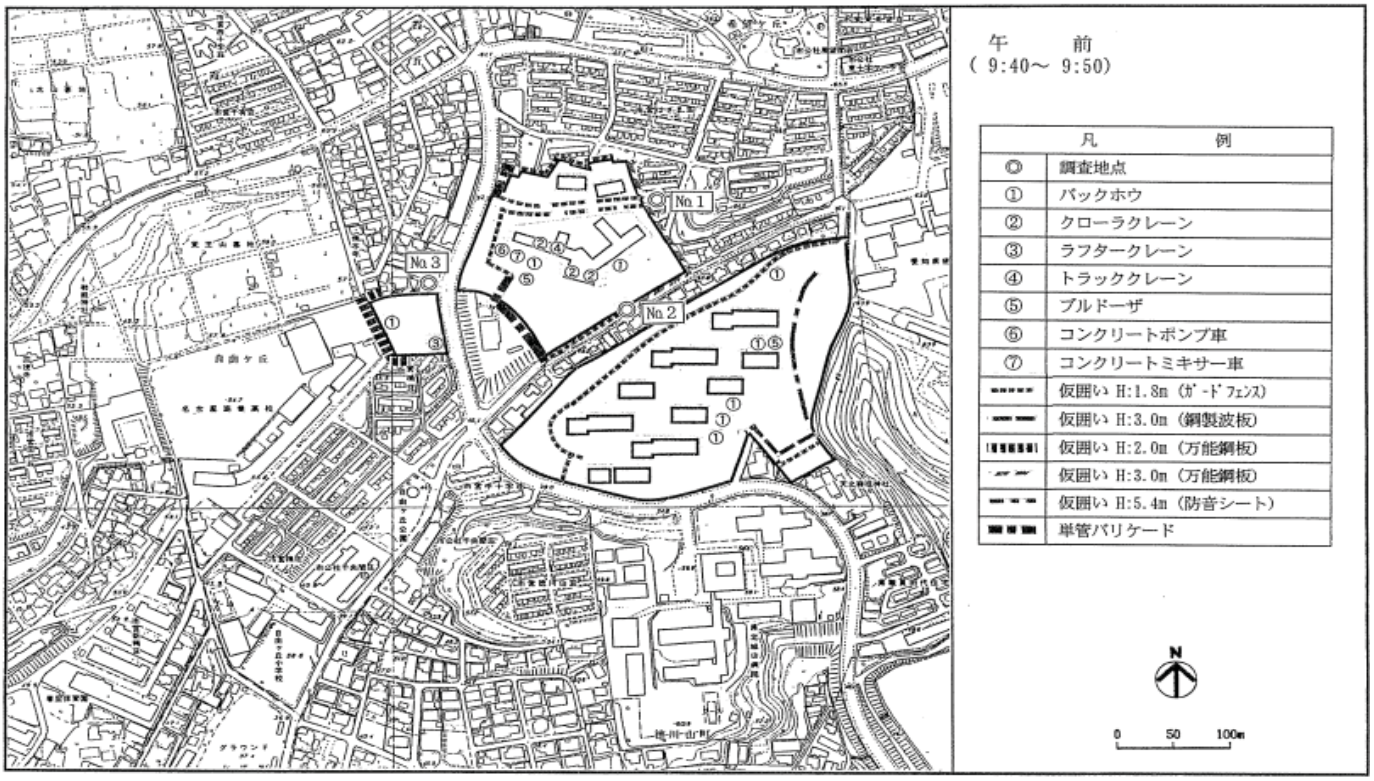
調査対象団地及び工種

番　号	団地名称	工　種
③	センター地区	仮設工事・基礎工事
	はざま荘	仮設工事・本体躯体工事
④	楠北棟	仮設工事・基礎工事
⑤	金児荘	仮設工事・外溝工事

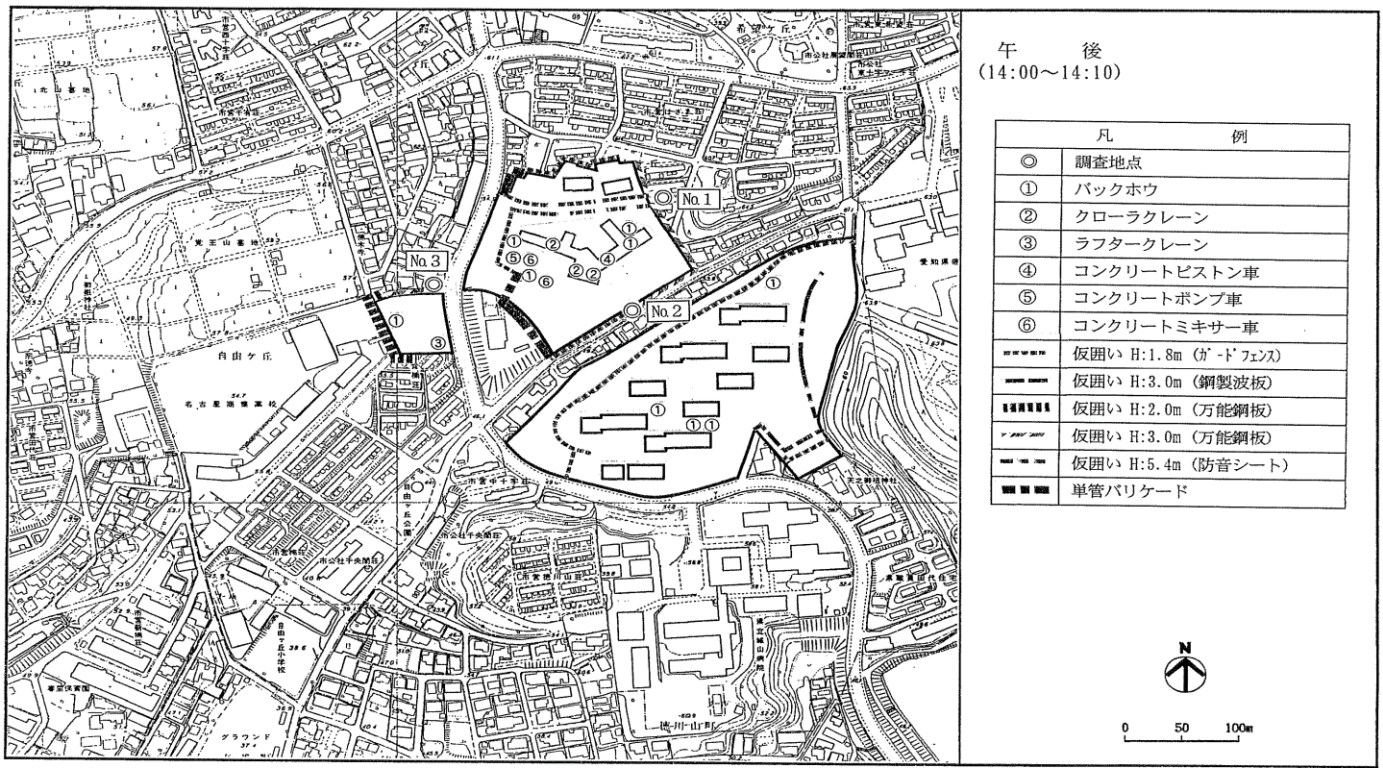
騒音の調査時期：平成15年2月20日

(8) 平成14年度　　騒音

調査場所及び工事機械配置図



センター区域、はざま荘、楠北棟、金児荘（仮設・基礎・外構・躯体工事　午前）



センター区域、はざま荘、楠北棟、金児荘（仮設・基礎・外構・躯体工事　午後）

(8) 平成14年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音の調査結果

単位:dB

調査地点	時間帯	調査結果（L_5） 上段：工事騒音 下段：暗騒音	規制基準値
No. 1	午前	62	85
		57	
	午後	64	
		61	
No. 2	午前	73	
		73	
	午後	73	
		73	
No. 3	午前	66	
		59	
	午後	64	
		61	

注）工事騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した値である。

工事騒音調査結果

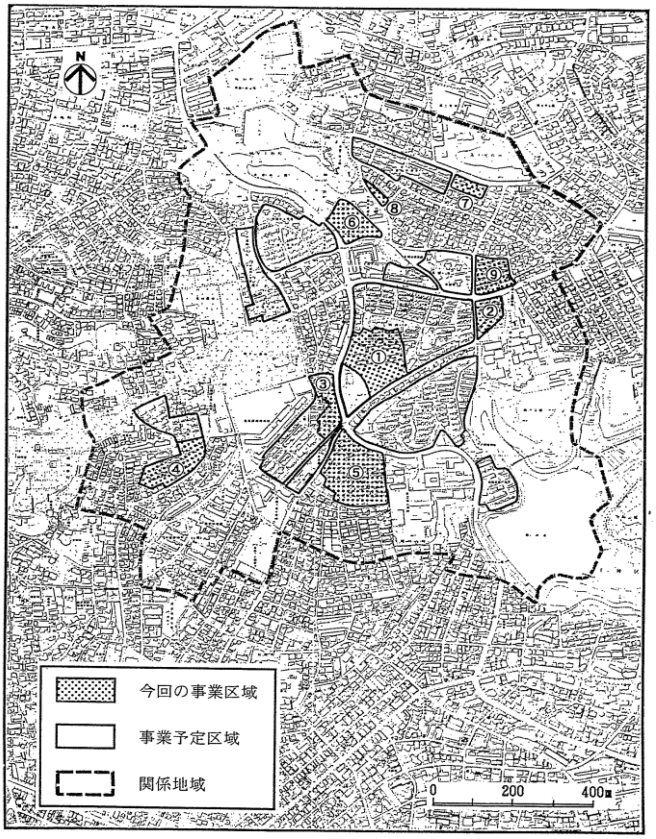
各地点における工事騒音（暗騒音を含むL_5）の最大値は、No.1で64dB、No.2で73dB、No.3で66dBであり、全地点で規制基準値である85dBを下回った。

工事騒音調査時期及び結果一覧表(資料編)

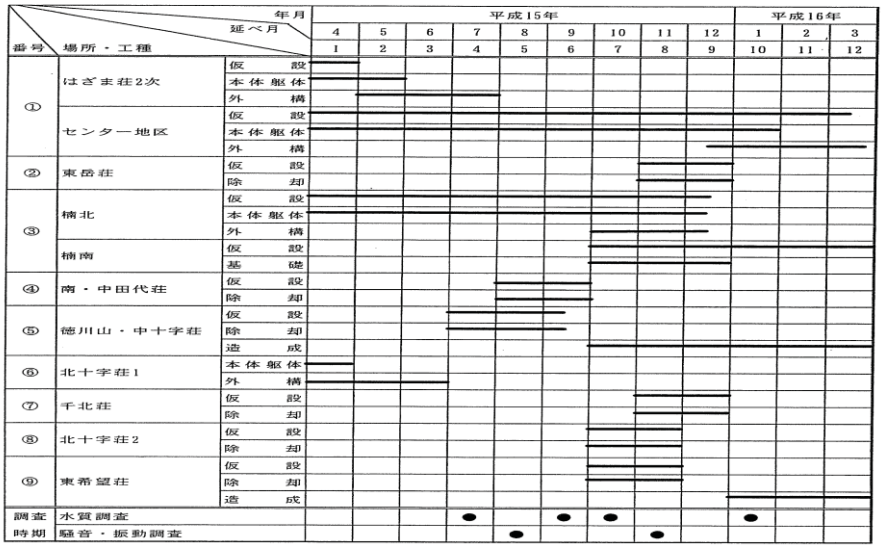
調査対象団地	時間帯		使用工事機械種及び台数	調査結果[dB]（上段：工事騒音　下段：暗騒音） No. 1 L_5	No. 1 L_{50}	No. 1 L_{95}	No. 2 L_5	No. 2 L_{50}	No. 2 L_{95}	No. 3 L_5	No. 3 L_{50}	No. 3 L_{95}	規制基準[dB](敷地境界上)
センター地区・はざま荘・楠北棟・金児荘	午前	作業中 9:40～9:50	バックホウ 8 クローラクレーン 3 ラフタークレーン 1 トラッククレーン 1 ブルドーザ 2 ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 1 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車 1	62	58	55	73	70	68	66	62	58	85
		暗騒音 11:00～11:10		57	53	50	73	69	68	59	55	53	
	午後	作業中 14:00～14:10	バックホウ 9 クローラクレーン 3 ラフタークレーン 1 ｺﾝｸﾘｰﾄﾋﾟｽﾄﾝ車 1 ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車 1 ｺﾝｸﾘｰﾄﾐｷｻｰ車 2	64	61	59	73	70	68	64	60	58	
		暗騒音 14:50～15:00		61	57	54	73	68	66	61	58	54	

(9) 平成15年度　　騒音

事業実施場所



スケジュール（調査工程、調査日）



調査した環境項目及び調査回数

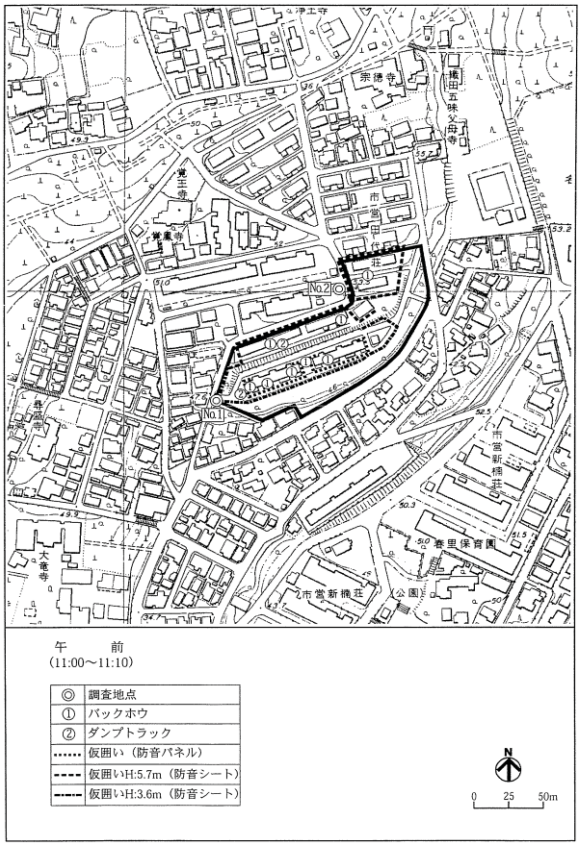
環境要素	調査事項	調査回数	調査期間
水質	水素イオン濃度（pH） 浮遊物質量（SS）	4回	平成15年7月、9月、10月、 平成16年1月
騒音	工事騒音	4回	平成15年8月、11月
振動	工事振動	4回	平成15年8月、11月

騒音の調査時期

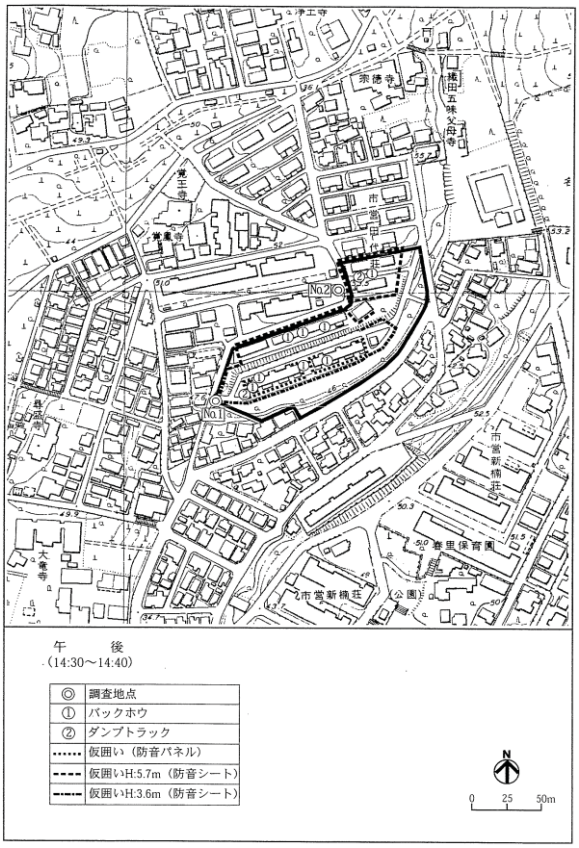
調査時期	番号	対象団地名	工種
平成15年8月25日	④	南・中田代荘	仮設工事、除却工事
平成15年11月 7日	⑨	東希望荘	仮設工事、除却工事
平成15年11月17日	①	センター地区	仮設工事、本体躯体工事
	③	楠　北	仮設工事、本体躯体工事、外構工事
		楠　南	仮設工事、基礎工事
	⑤	徳川山・中十字荘	造成工事
平成15年11月26日	②	東岳荘	仮設工事、除却工事

(9) 平成15年度　　騒音

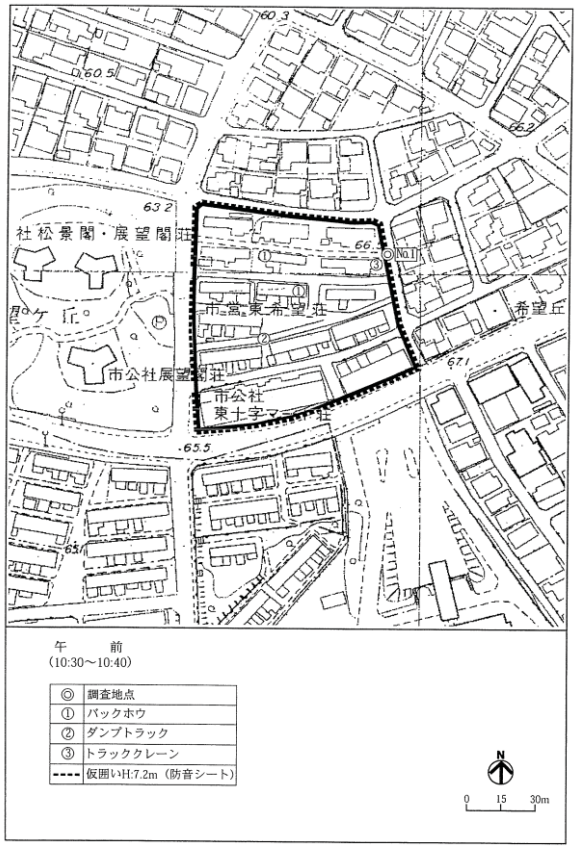
調査場所及び工事機械配置図



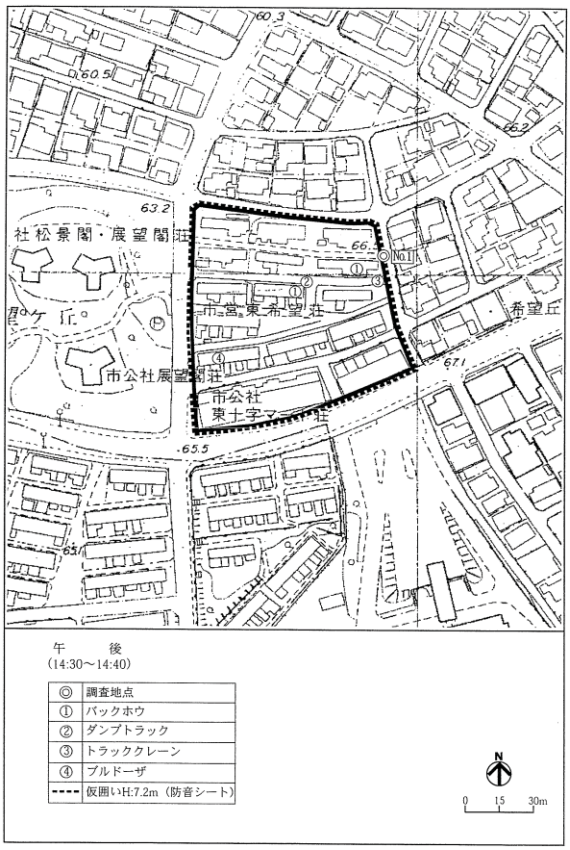
南・中田代荘（仮設・除却工事　午前）



南・中田代荘（仮設・除却工事　午後）



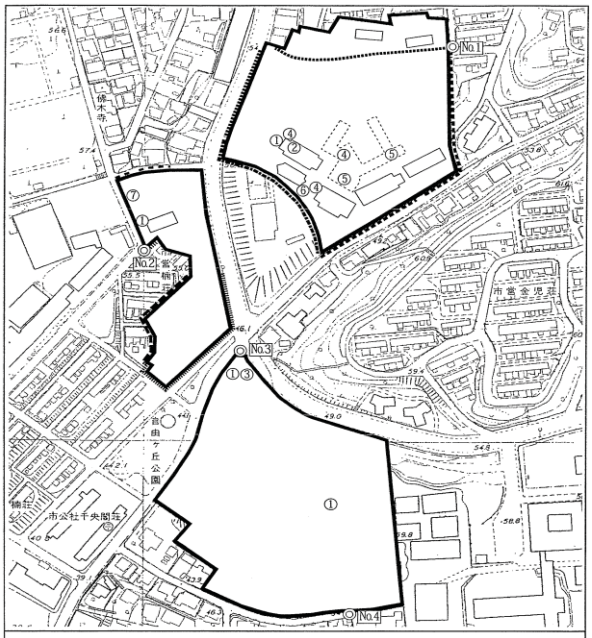
東希望荘（仮設・除却工事　午前）



東希望荘（仮設・除却工事　午後）

(9) 平成15年度　　騒音

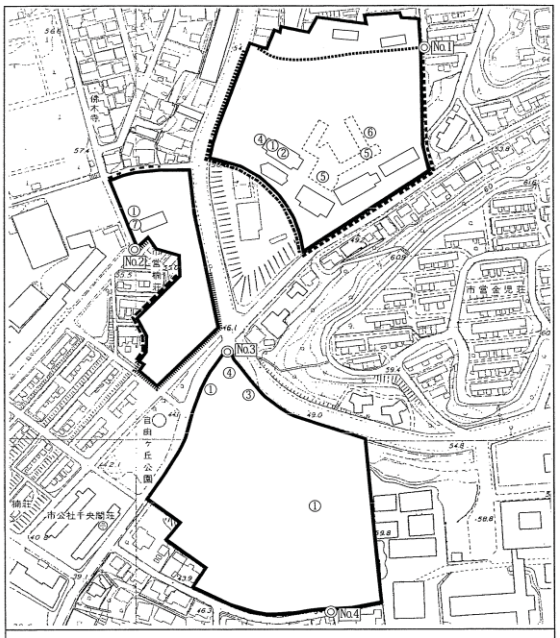
調査場所及び工事機械配置図



午　　前
(9:30～9:40)

◎	調査地点	----	仮囲いH:3.0m（万能鋼板）
①	バックホウ	-·-·-	仮囲いH:1.2m（ガードフェンス）
②	ブルドーザ	·····	仮囲いH:1.8m（ガードフェンス）
③	ダンプトラック	- - -	仮囲いH:3.5m（A型単管バリケード）
④	普通トラック	·····	仮囲いH:1.8m（フェンスバリケード）
⑤	クローラータワークレーン	▬ ▬	仮囲いH:3.0m（万能板）
⑥	ユニッククレーン		
⑦	ハンドブレーカ		

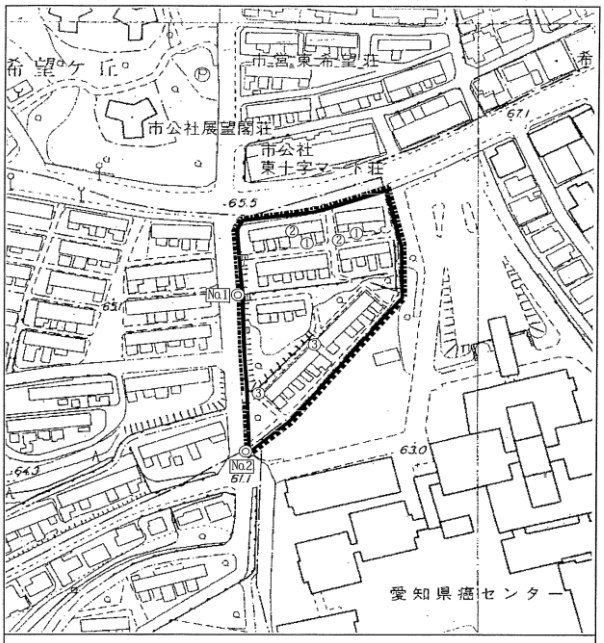
センター区域、楠北・南棟、徳川山・中十字荘
（仮設・基礎・外構・躯体・造成工事　午前）



午　　後
(13:50～14:00)

◎	調査地点	----	仮囲いH:3.0m（万能鋼板）
①	バックホウ	-·-·-	仮囲いH:1.2m（ガードフェンス）
②	ブルドーザ	·····	仮囲いH:1.8m（ガードフェンス）
③	ダンプトラック	- - -	仮囲いH:3.5m（A型単管バリケード）
④	普通トラック	·····	仮囲いH:1.8m（フェンスバリケード）
⑤	クローラータワークレーン	▬ ▬	仮囲いH:3.0m（万能板）
⑥	ユニッククレーン		
⑦	ハンドブレーカ		

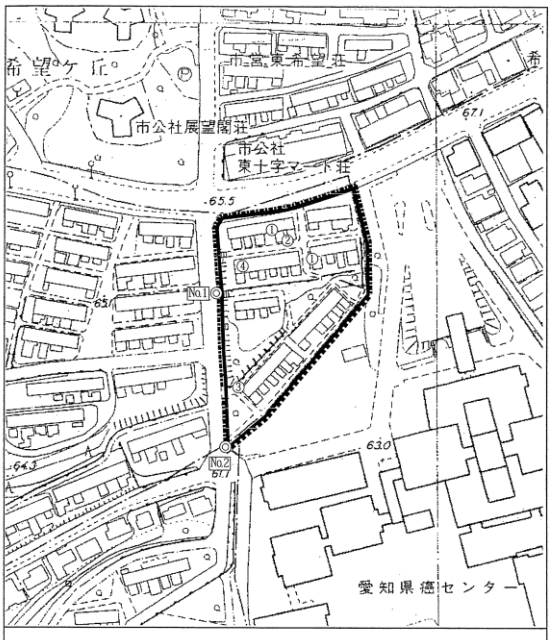
センター区域、楠北・南棟、徳川山・中十字荘
（仮設・基礎・外構・躯体・造成工事　午後）



午　　前
(10:50～11:00)

◎	調査地点
①	バックホウ
②	コンクリート圧砕機
③	ダンプトラック
----	仮囲いH:9.9m（防音シート）
-·-·-	仮囲いH:6.3m（防音シート）

東岳荘（仮設・除却工事　午前）



午　　後
(14:20～14:30)

◎	調査地点
①	バックホウ
②	コンクリート圧砕機
③	ダンプトラック
④	コンクリートカッター
----	仮囲いH:9.9m（防音シート）
-·-·-	仮囲いH:6.3m（防音シート）

東岳荘（仮設・除却工事　午後）

(9) 平成15年度　　騒音

調査結果（工事騒音）

工事騒音の調査結果（南・中田代荘）

（単位：dB）

調査地点	時間帯	調査結果（L_5） 工事騒音	調査結果（L_5） 暗騒音	規制基準値
No.1	午前	73	57	85
	午後	69	55	
No.2	午前	67	48	
	午後	69	55	

注）工事騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した数値である。

工事騒音の調査結果（東希望荘）

（単位：dB）

調査地点	時間帯	調査結果（L_5） 工事騒音	調査結果（L_5） 暗騒音	規制基準値
No.1	午前	67	50	85
	午後	70	48	

注）工事騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した数値である。

工事騒音の調査結果
（センター地区、楠北・南棟、徳川山・中十字荘）

（単位：dB）

調査地点	時間帯	調査結果（L_5） 工事騒音	調査結果（L_5） 暗騒音	規制基準値
No.1	午前	60	55	85
	午後	60	56	
No.2	午前	65	62	
	午後	65	57	
No.3	午前	73	72	
	午後	74	72	
No.4	午前	59	53	
	午後	60	54	

注）工事騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した数値である。

工事騒音の調査結果（東岳荘）

（単位：dB）

調査地点	時間帯	調査結果（L_5） 工事騒音	調査結果（L_5） 暗騒音	規制基準値
No.1	午前	70	70	85
	午後	70	67	
No.2	午前	68	67	
	午後	72	68	

注）工事騒音は作業時、暗騒音は休憩時に測定した数値である。

工事騒音調査結果

各調査時期における工事騒音（暗騒音を含む:L_5）は、全て規制基準値である85dBを下回った。

工事騒音調査結果一覧表(資料編)

調査日：平成15年8月25日

対象団地名	時間帯		使用工事機械種及び台数		調査結果[dB]（上段：工事騒音　下段：暗騒音） No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	規制基準[dB]（敷地境界上）
南・中田代荘	午前	作業中 11:00～11:10	バックホウ ダンプトラック	8 2	73	66	62	67	62	59	85
		休憩中 10:15～10:25	－	－	57	50	43	48	44	42	
	午後	作業中 14:30～14:40	バックホウ ダンプトラック	8 2	69	63	58	69	61	58	
		休憩中 15:30～15:40	－	－	55	52	47	55	51	48	

調査日：平成15年11月7日

対象団地名	時間帯		使用工事機械種及び台数		調査結果[dB]（上段：工事騒音　下段：暗騒音） No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	規制基準[dB]（敷地境界上）
東希望荘	午前	作業中 10:30～10:40	バックホウ ダンプトラック トラッククレーン	2 1 1	67	57	53	85
		休憩中 10:10～10:20	－	－	50	44	41	
	午後	作業中 14:30～14:40	バックホウ ダンプトラック トラッククレーン ブルドーザ	4 1 2 1	70	61	57	
		休憩中 15:00～15:10	－	－	48	43	38	

調査日：平成15年11月17日

対象団地名	時間帯		使用工事機械種及び台数		調査結果[dB]（上段：工事騒音　下段：暗騒音） No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	No.3 L_5	No.3 L_{50}	No.3 L_{95}	No.4 L_5	No.4 L_{50}	No.4 L_{95}	規制基準[dB]（敷地境界上）
センター地区 楠北・南棟 徳川山・中十字荘	午前	作業中 9:30～9:40	バックホウ ブルドーザ ダンプトラック 普通トラック クローラータワークレーン ユニッククレーン ハンドブレーカ	4 1 1 3 2 1 1	60	54	51	65	59	56	73	66	60	59	56	53	85
		休憩中 10:55～11:05	－	－	55	53	48	62	56	52	72	65	58	53	49	46	
	午後	作業中 13:50～14:00	バックホウ ブルドーザ ダンプトラック 普通トラック クローラータワークレーン ユニッククレーン ハンドブレーカ	4 1 1 2 2 1 1	60	56	52	65	61	54	74	69	60	60	56	54	
		休憩中 14:45～14:55	－	－	56	51	49	57	55	52	72	65	60	54	50	47	

調査日：平成15年11月26日

対象団地名	時間帯		使用工事機械種及び台数		調査結果[dB]（上段：工事騒音　下段：暗騒音） No.1 L_5	No.1 L_{50}	No.1 L_{95}	No.2 L_5	No.2 L_{50}	No.2 L_{95}	規制基準[dB]（敷地境界上）
東岳荘	午前	作業中 10:50～11:00	バックホウ コンクリート圧砕機 普通トラック	2 2 3	70	62	57	68	59	53	85
		休憩中 10:05～10:15	－	－	70	58	49	67	60	52	
	午後	作業中 14:20～14:30	バックホウ コンクリート圧砕機 普通トラック コンクリートカッター	2 1 1 1	70	62	58	72	61	58	
		休憩中 15:05～15:15	－	－	67	60	47	68	58	49	